sysmex

シスメックス あんしんレポート2014

CSR報告書 詳細版

シスメックスあんしんレポート2014 詳細版

目 次

編集方針 …… 2
トップメッセージ …… 3
シスメックスについて …… 5
企業理念 …… 7
特集１ …… 9
特集２ …… 11
特集３ …… 13
CSR の取り組みの概要 …… 15
グローバルトピックス …… 16
マネジメント …… 25
お客様との関わり …… 34
従業員との関わり …… 40
取引先との関わり …… 48
株主との関わり …… 50
社会貢献活動 …… 51
　健康社会づくり …… 52
　地域社会への協力 …… 54
環境保全活動 …… 56
　環境マネジメント …… 57
　環境計画と実績 …… 59
　グリーン調達 …… 64
　環境データ …… 65
社外からの CSR 評価 …… 66
ガイドライン等対照表 …… 69
第三者意見 …… 79

編集方針

シスメックスの社会的責任（CSR）に関する考え方とその活動について、ステークホルダーの皆様へお伝えし、皆様との対話を深めることを目的として、毎年、CSR報告書「シスメックスあんしんレポート」（詳細版／ダイジェスト版）を発行するとともに、CSRサイトにおいて情報を開示しています。

各メディアの情報内容

- 「シスメックスあんしんレポート2014」（詳細版）、CSRサイト：網羅的に情報を開示
- 「シスメックスあんしんレポート2014」（ダイジェスト版）：重要な情報のみを抜粋

対象組織

原則としてシスメックスグループ（シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社）を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス（株）」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2013年度（2013年4月1日から2014年3月31日）を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
- GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」

発行時期

2014年7月（前回の発行は2013年8月）

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社　経営企画本部 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
TEL. 078-265-0500（代表）　FAX. 078-265-0524

グローバルな医療課題の解決に貢献し、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けしていきます。

世界各地で事業活動を通じた社会への貢献を目指しています。

1968年の創業以来、検体検査の分野で先進の技術をベースに、さまざまな製品やサービスを生み出してまいりました。2013年度に、創立45周年を迎えたシスメックスは、現在、世界170カ国以上で製品をご使用いただいています。

医療を取り巻く環境は近年、大きく変わりつつあります。新興国では、経済発展と人口増加を背景に医療ニーズが増大し、また先進国では、少子高齢化や健康に対する価値観の多様化が進んでいます。そのような中、疾病予防や病気の早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検査の重要性は年々増えています。こうした環境変化をいち早く捉え、「健康でありたい」という人々の願いに応えたいと考えています。

2013年度は、変わりゆくヘルスケア市場で今後も発展・成長を続け、さまざまな医療課題の解決に貢献していくために、ドイツのアイノスティクス社(現 シスメックス・アイノスティクス社)およびパルテック社をグループに迎え入れました。シスメックス独自の診断技術やネットワークに、血液中のがん遺伝子を高感度に検出する技術を有するアイノスティクス社と、フローサイトメトリー※技術のパイオニアであるパルテック社のノウハウや開発力を融合することで、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する個別化医療の実現を目指してまいります。また、パルテック社は、HIVやマラ

リアなど感染症検査分野においても高いプレゼンスを有しています。今後は、シスメックスのネットワークを活用し、新興国・途上国における医療の発展への貢献を目指してまいります。さらに、川崎重工業株式会社と共同で、医療用ロボットの製品化に向けて、マーケット活動を行う株式会社メディカロイドを設立しました。

今後もシスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のMission「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、事業活動を通じて世界中の人々の健やかな暮らしに寄与してまいります。

※ フローサイトメトリー：微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して個々の粒子を光学的に分析する手法のこと。主に細胞を個々に観察する際に用いられる。

ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けするためにさまざまな活動を展開しています。

シスメックスは、「Sysmex Way」に基づき、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けするという考え方を大切にしています。2011年から参加している国連グローバル・コンパクトの10原則と、社会的責任の国際規格ISO26000を踏まえた「CSR中期計画」を2013年4月からスタートさせており、企業の社会的責任を全うすべく、一歩一歩取り組みを進めています。

2013年度は、従来から取り組んでいる物流プロセスの改善を大きく前進させました。製品梱包材の見直し、試薬原材料の現地調達化、自社倉庫の新設、地元・神戸港の活用など、全体最適なグローバルロジスティクス構造の再構築を目指したこれらの取り組みは、物流の効率化やコスト削減のみならず、CO_2排出量削減にも寄与しています。

また、本業を通じた取り組み以外では、試薬生産工場のある兵庫県小野市に「シスメックスの森」を新たに開設しました。手入れが行き届かず生態系のバランスが低下した森林を再生するため、開設以来間伐や下草刈り、歩道整備などの森林整備活動を進めています。地域の皆様をはじめ、多くの方々が気軽に自然と触れ合える里山を目指して取り組みを継続してまいります。さらに、ヘルスケアに関わる企業として、スポーツを通じた健康社会づくりに貢献したいという想いから、第1回大会より継続して「神戸マラソン」に特別協賛しています。2013年11月に開催された第3回大会では、約2万名のランナーを支えるため当社グループから約300名の従業員・家族がボランティアや沿道応援に駆け付けました。2014年11月開催の第4回大会においても大会のサポートを通じて地元神戸の活性化に寄与してまいります。

新たなグループ中期経営計画をスタートさせ、将来の基盤整備を進めています。

2013年4月には、グループの高成長の持続と収益性のさらなる向上を目指し、新たなグループ中期経営計画をスタートさせました。

ビジネスユニット体制による事業推進体制の強化、研究開発への継続的投資、生産拠点の整備による生産能力の増強など、将来の成長に向けた基盤整備を進めています。また、スピードと実行を重視する企業カルチャーへと転換させることで、確実に企業としてのステージを上げていくことがグループ中期経営計画の目指す姿です。

これからもグループと地球社会の持続的な発展を実現するために挑戦を続けてまいります。ステークホルダーの皆様には、今後ともいっそうのご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2014年7月

代表取締役会長兼社長　家次 恒

注：本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを指し、「シスメックス（株）」はシスメックス株式会社単体を指します。

ヘルスケアにおける「検査」の領域で
世界中に製品・サービスをお届けしています。

患者さんから採取した血液や尿、細胞などを調べる検体検査は健康状態の確認や治療方針の決定にあたって重要な役割を果たします。シスメックスは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートまでの一貫体制のもと、検体検査分野を中心に、さまざまな機器や試薬を170カ国以上のお客様に提供し、人々の健康と生命を支えています。

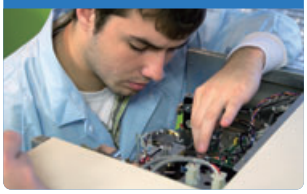
研究開発から生産、販売、サービス&サポートまでの一貫体制

研究開発
価値の高い検査・診断技術を創出

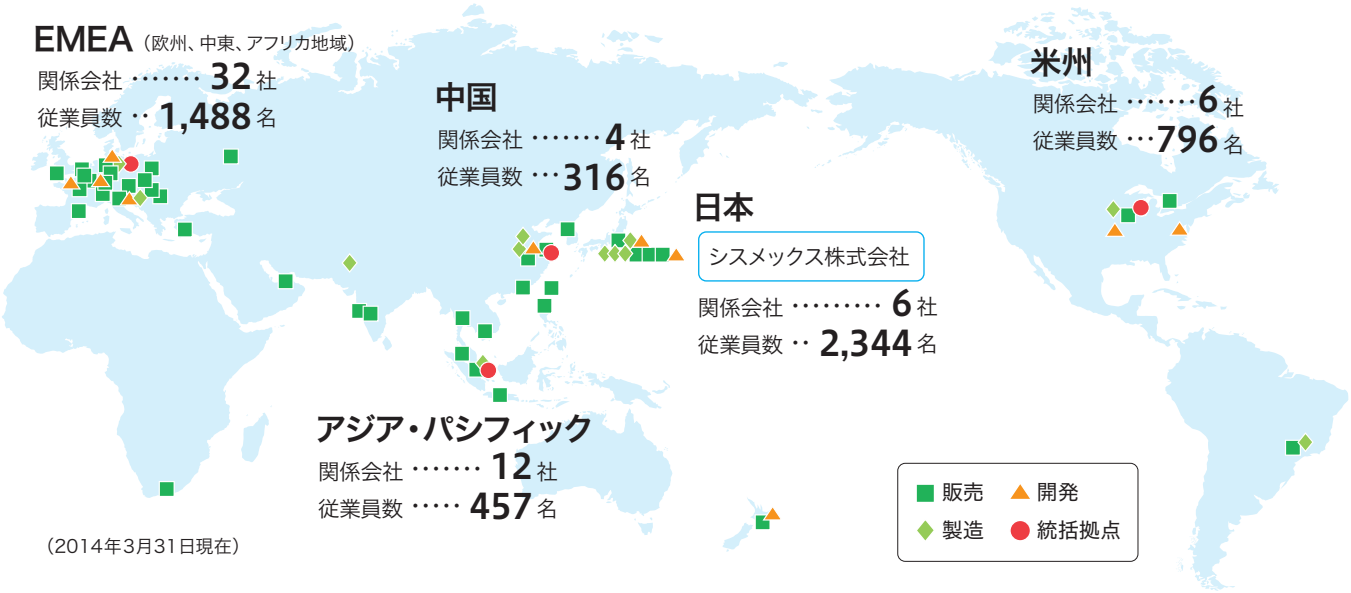
生 産
品質を確保し、製品を安定的に供給

販 売
170カ国以上に製品・サービスを提供

サービス&サポート
お問い合わせにきめ細かく対応



グローバルネットワーク〜世界170カ国以上に製品・サービスを提供



（2014年3月31日現在）

身近なところで、シスメックスの製品が活躍しています。

❶ 病院

当社製品は、外来・入院検査や人間ドックでの血液検査などに用いられ、身体の各器官・各組織の機能低下や異常の発見に役立っています。

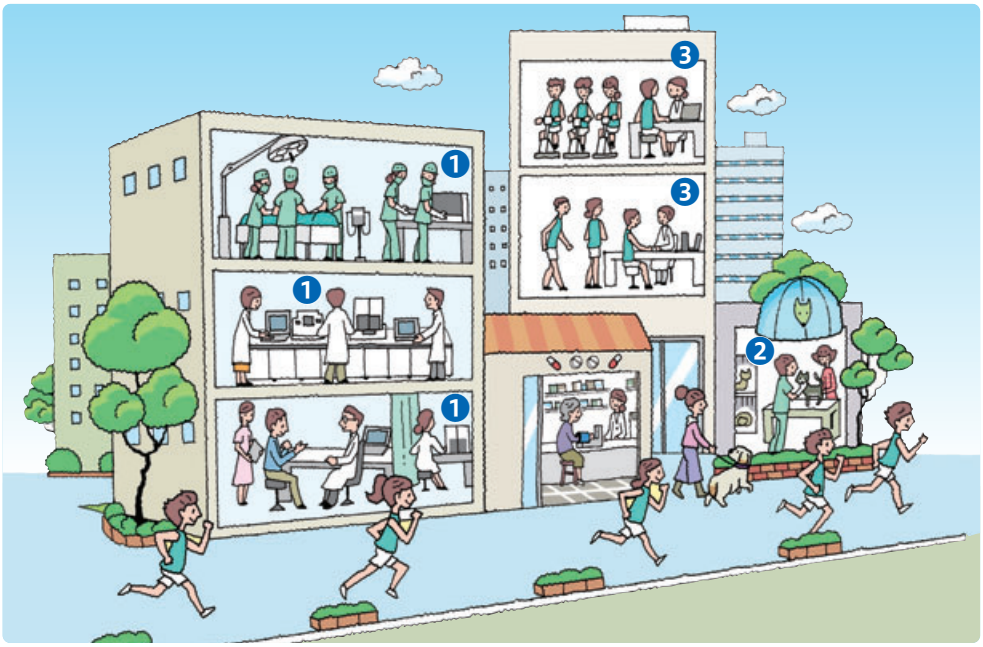
全自動血液凝固測定装置
「CS-5100」

全自動免疫測定装置
「HISCL-5000」

遺伝子増幅検出装置
「RD-100*i*」

多項目自動血球分析装置
XNシリーズ「XN-2000」

XNシリーズ試薬



❷ 動物病院

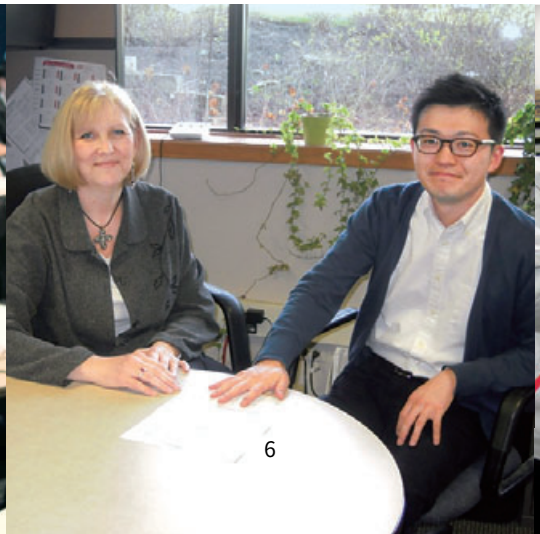
犬や猫などの血液検査に用いられる当社製品は、動物たちの健康管理に役立てられています。

動物用 多項目自動血球計数装置
「pocH-100*iV Diff*」

❸ スポーツ施設

当社のヘモグロビン推定値を測定できる装置は、スポーツジムや学校の運動部などでトレーニングプログラム作成や栄養管理などに活用されています。

健康モニタリング装置
「ASTRIM FIT」



企業理念

シスメックスグループ企業理念

Sysmex Way

Mission
ヘルスケアの進化をデザインする。

Value
私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind
私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して
常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して
多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、
安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して
公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して
経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して
法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

「Sysmex Way」の実践に向けて グループ全体で「VQ（バリュークエスト）」活動を展開

徹底的に考え、そして、実践につなげる場として VQ45を実施しました。

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて企業価値の向上を図る活動として、創立40周年の2008年に「VQ（バリュークエスト）」活動をスタートさせました。これは、「Sysmex Way」をどのように実践していくべきかを従業員一人ひとりが自ら考え、皆で議論する活動です。まず、社長から問い掛けが発信され、それに対して世界中の従業員が多くのアイデアを出し合い、数カ月にわたって議論を重ねるものです。

創立45周年を迎えた2013年度は、世界各地で進行している多種多様な環境変化に適応し、従業員一人ひとりが自らの仕事、グループでの仕事を「徹底的に考え、そして、実践につなげる場」として「VQ45」を実施しました。日本国内でのVQ45のテーマは「業務の再定義、仕事の見直し」であり、ステークホルダーの皆様に最適かつ最大の価値を提供するために、「知る・知らせる」「捨てる」「変える」の3つの視点で、再定義・見直すべき仕事は何かを考え、それぞれ実践することを推奨しました。

VQ45のテーマ（日本）

業務の再定義、仕事の見直し

情報共有、意見交換、議論を通じて 社内外の変化を「知る・知らせる」

無駄な業務、ルールは「捨てる」

ステークホルダーの期待を超えるために「変える」

世界各地のグループ従業員が 熱心に知恵を出し合いました。

VQ45は日本国内だけでなく、世界各地のグループ従業員が参加・推進し、2013年4月にグループに加わったばかりのシスメックス・コリアでも、熱心に議論が行われました。日本の各事業所では、さまざまな部門の従業員が集まり、気軽に話ができる座談会を開催したところ、ここから若手従業員を中心とした部門横断型の提案に発展しました。また、社内SNS（Social Networking Service）を活用することで、距離と組織の垣根を越えた意見交換も実現しました。

こうして生み出された各チームのアイデア、活動プロセス、活動結果をグループ全体で共有する場として、2013年10月に研究開発拠点テクノパークでVQ45発表会を開催。海外グループ会社を含む約600名の従業員が参加し、さまざまな提案が発表されました。なかでも、インド向けに安価で現地ニーズに即した製品を提供していくことを提案したシスメックス・インディア、全社に発信する品質情報の改善を提案した品質保証本部、パーツの梱包改善によるコスト・作業工数削減を提案したSCM（サプライチェーンマネジメント）本部には、それぞれ賞が与えられました。また、社会貢献活動を促進するために提案された「社会貢献ポイント制度」は2014年4月に導入されました。

さらに、VQ45以外にも創立45周年を記念して、従業員の家族向けの職場見学会「オープンシスメックス」や、創立45周年記念イベント「フェスタ45」を開催しました。今後もシスメックスは、VQ活動をはじめとして地域や組織の枠組みを取り払った活発なコミュニケーションを推進し、グループ一丸となって「Sysmex Way」の実践に取り組んでいきます。

写真①、②、③、④：VQ45発表会の様子　写真⑤：オープンシスメックスの様子　写真⑥：フェスタ45の様子

新たにドイツ企業2社をグループに迎え入れ、個別化医療の実現と、新興国・途上国における感染症医療の普及に貢献

グローバルな医療課題の解決に貢献するために

近年、ヘルスケア市場においては、先進国での高齢化、新興国における人口増加とそれにともなう感染症の増加が進んでいます。また新興国の経済発展にともなう医療ニーズも増大しています。

そのような中、遺伝子解析技術の進展によって、病気の発生リスクの分析はもちろんのこと、個人の体質に合わせた適切な治療法の選定や薬剤の開発が進むなど、「個別化医療」は医療業界の重要なキーワードとなってきています。また一方、新興国・途上国では、健康上の脅威である感染症対策や、公衆衛生の向上などを目的として、広く医療サービスを提供できる小型・低コストの診断装置へのニーズが高まってきています。

「ヘルスケアの進化をデザインする。」をグループ企業理念に掲げるシスメックスは、こうしたグローバルで多様化する医療ニーズに応えることを目指して、2013年度、ドイツ企業2社をグループに迎え入れました。血液中のがん遺伝子を高感度で検出する技術を持つアイノスティクス社（現 シスメックス・アイノスティクス社）と、フローサイトメトリー※1技術のパイオニアで、研究領域およびHIVやマラリアなど感染症検査市場において高いプレゼンスを有するパルテック社です。

がん患者さん一人ひとりに最適な治療を目指して

シスメックス・アイノスティクス社は、血液から、がんの要因となっている遺伝子の異常発現や変異を超高感度で検出する「BEAMing技術※2」を有する企業です。摘出した腫瘍組織を検査する従来手法と比べて、この技術では、血液を用いるため患者さんへの負担が少ないだけでなく、何度も繰り返し検査ができるため治療法のモニタリングも可能になります。また、これまでは、採取した組織の一部から検査を行ったり、もしくは、がんの部位によっては組織を採取することが困難なことがありましたが、高感度な血液検査でがん組織全体の状態を把握でき

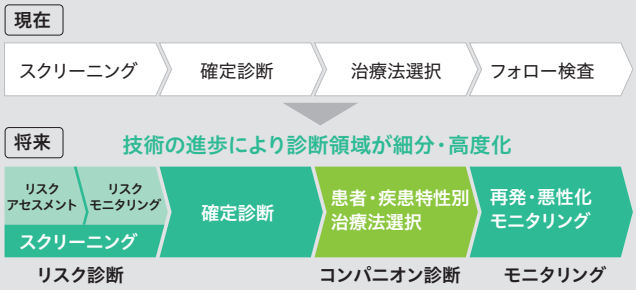
シスメックス・アイノスティクス社

がん遺伝子の超高感度検出技術

がんのコンパニオン診断薬の開発を推進

［会社概要］
Sysmex Inostics GmbH　（本店所在地：ドイツ／ハンブルク）
会社設立：2008年　　従業員数：約40名（2013年12月現在）

検査の貢献領域の広がり



一人ひとりに最適ながん治療法の選択に寄与

コンパニオン診断薬によって治療薬の有効性がより期待できる患者さんや、副作用のおそれが高い患者さんを特定できるようになり、個々人の体質に合った適切な治療法や薬剤が選定できるようになると期待されています。

ステークホルダーの声

私たちは、タンザニアで2,000名以上のHIV陽性者・AIDS患者のケア・治療にあたっているNPOです。移動性に優れ、多くの患者さんにサービスを提供できるパルテック社の小型・ポータブル式の感染症検査装置を導入したことで、郊外に住む母親や子どもたちが検査を身近で受けられるようになりました。この私たちの取り組みは、州の保健当局からも大きな関心を集めています。今後もパルテック社とともに多くの可能性を模索していきたいです。

Highlands Hope **Royal Orr** 様

るようになりました。同社では、この技術を用いた受託検査サービス「OncoBEAM®」を主体とした事業を展開しています。

特に、大手製薬会社とともに、がんの個別化医療のカギとなる「コンパニオン診断薬」の開発事業に積極的に取り組んでいます。この診断薬による検査で個々の患者さんの血液などを用いて薬剤標的となるたんぱく質や遺伝子を解析することで、治療薬の有効性がより期待できる患者さんや、副作用のおそれが高い患者さんを特定できるようになります。シスメックスの自社技術にこれらの新たな技術を加えることで個別化医療の実現を目指します。

簡便・廉価なHIV/AIDS検査の普及を目指して

パルテック社は、フローサイトメトリー(FCM)法による研究用機器を1968年に世界で初めて製品化したパイオニアです。この技術を活かして開発された新興国・途上国向けの製品は、世界3大感染症であるHIV/AIDS、結核、マラリア患者の治療・モニタリングに役立てられています。これらは、医療設備が十分でない環境でも検査が可能な小型のポータブル式で、使用する試薬も他社製品の数分の一の低価格です。また、各地で手軽に検査できる移動ラボラトリーを展開しており、特にアフリカのHIV/AIDS検査市場では高いシェアを獲得しています。

今後はシスメックスのグローバルなネットワークを活用することで、アフリカだけでなく、アジアや中南米などでもパルテック社の製品の認知度・普及度を高め、さまざまな新興国・途上国の医療環境改善に貢献していきます。世界中の人々の健やかな暮らしに貢献していくために――シスメックスはグループ一体となって新たなステージへ挑戦していきます。

※1 フローサイトメトリー：微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して個々の粒子を光学的に分析する手法のこと。主に細胞を個々に観察する際に用いられる。

※2 BEAMing技術：BEAMは、Bead, Emulsion, Amplification, and Magneticsの各頭文字。Digital PCR(高感度PCR)技術とフローサイトメトリー技術を融合させた遺伝子解析手法。これによって血中の微量遺伝子変異を検出することができる。

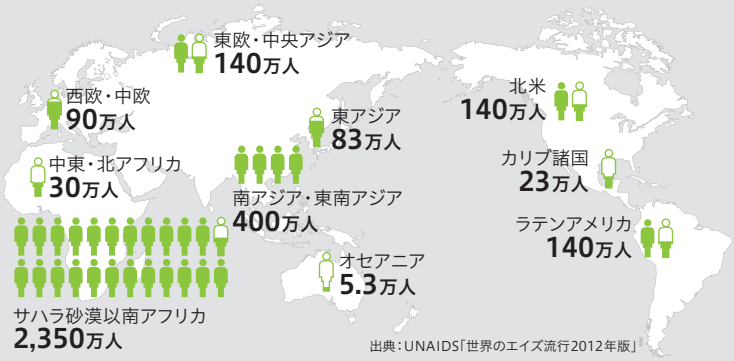
パルテック社

小型・ポータブル式の感染症検査装置

インフラ未整備地で移動ラボラトリーを展開

[会社概要]
Partec GmbH　(本店所在地：ドイツ／ゲルリッツ)
会社設立：1967年　　従業員数：約180名(2013年12月現在)

世界のHIV陽性者数



出典：UNAIDS「世界のエイズ流行2012年版」

新興国・途上国での感染症医療普及に貢献

新興国・途上国では、HIV/AIDS、結核、マラリアが蔓延しており、世界的な課題となっています。簡便・廉価な検査機器が普及することで、これら感染症の予防・治療に貢献できると考えられています。

物流のプロセス・体制をグローバルな観点から見直し、効率化と環境負荷低減を推進するためにプロジェクトを発足

グローバルレベルで段階的に物流改善を推進

新興国での医療投資拡大や、社会的な環境問題の深刻化など、シスメックスの事業を取り巻く環境は年々変化しています。そのような中で製品分野や販売地域の拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しが必要になってきました。

そこで、「全体最適」なグローバルロジスティクス構造の再構築やプロセス改革によるサプライチェーンリードタイム短縮を目的に、2012年4月、プロジェクトを発足しました。以来、段階的に物流体制の見直しや梱包改革を進め、物流全般の再構築に取り組んでいます。

このプロジェクトの取り組みは、物流改革のみならず、環境負荷低減にもつながります。シスメックスが掲げる「エコビジョン2020※」を達成するための有力な手段になるため、物流部門をはじめ、資材部門や工場、海外関係会社を巻き込んだ統合的な施策を段階的に進めています。

※ エコビジョン2020：シスメックスグループ環境行動計画。「製品・サービス等の環境配慮」と「事業所の環境配慮」に関する2020年度までの目標を設定。

グローバルな物流体制の再構築によるCO_2排出量削減を目指して

これまで、一部の保冷試薬の海外輸送を航空便から船便に転換することで大幅なCO_2排出量削減に成功しています。また、機器製品の本体付属品の一部を現地調達に切り替えたことにより、リードタイムの大幅な短縮を実現しただけでなく、輸送距離が削減されて、CO_2排出量削減にもつながりました。今後は現地調達化を機器本体付属品だけでなく、試薬材料にも展開していく予定で、一層の効果が期待できます。

さらに、積載シミュレーションを強化することで製品の出荷タイミングを調整し、船便コンテナへの積載率を向上させ、

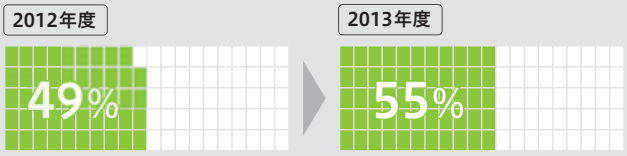
CO_2排出量削減につながった活動

一部保冷試薬の海外輸送を航空便から船便へ

機器製品の本体付属品の一部を現地調達

積載シミュレーションの強化により、製品の出荷タイミングを調整して船便コンテナへの積載率を向上

積載率改善事例



船便コンテナへの積載率（ピーク時）を **6ポイント向上**

ステークホルダーの声

製品をお届けする物流活動は「動脈物流」と言われ、その反対の回収や廃棄の物流は「静脈物流」と言われます。私たちは、輸送モードの切替えやコンテナ積載率を向上させ効率よく送る動脈物流の視点と、使用後の回収や廃棄に至る静脈物流の視点を同時に持つことを意識し、梱包サイズや梱包資材の見直しに取り組んできました。今後もグローバルな観点で環境負荷低減を目指して活動していきます。

シスメックス(株) ロジスティクス部 部長 **片山 知恵**

輸送回数を削減することができました。具体的には、2013年度の積載率(ピーク時)は55%となり、2012年度の49%から6ポイント向上しました。

また、兵庫県加古川市に竣工した新工場「アイ スクエア」の敷地内に倉庫を設置し、2014年8月に稼働させる予定です。工場と倉庫を直結させることで、効率的な物流体制を築くとともに、日本国内のお客様への直送体制の確立、神戸港の積極活用による高効率な海外輸出ルートの実現などを目指しています。

今後も、コンテナ積載率のさらなる向上を目指し、海外生産拠点も含めたグローバルな適正在庫を本社地区の物流部門で管理し、無駄のない計画的な輸送を探求し続けます。

梱包設計の見直しによる省資源化やリサイクル率向上を目指して

機器製品の梱包サイズの適正化は保管・積載率の向上につながり、また輸出先の地域特性を考慮した梱包設計の導入は、省資源化やリサイクル率向上に貢献します。

物流のプロセス改善と同時に、梱包設計の見直しを進め、すでに一部では輸送中の取り扱いによる損傷の恐れがないスチール梱包を導入しました。また、国内向けには繰り返し利用できるリユース梱包の導入を、地域の特性に合わせて順次展開していく計画です。

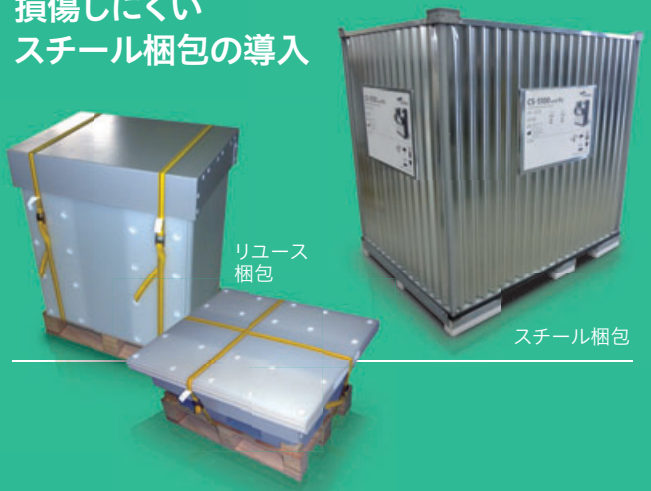
今後もシスメックスは、グローバルでの供給責任が拡大していることを認識し、継続的な物流効率の改善とともに環境負荷の低減に取り組んでいきます。

梱包の改善

機器製品の梱包サイズの適正化による保管・積載率の向上

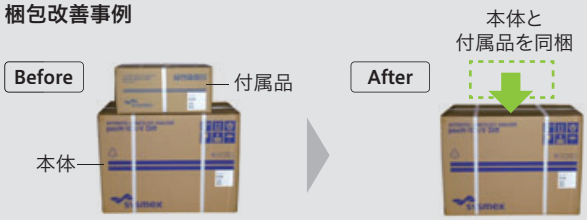
輸出先の地域特性を考慮した梱包設計の導入

繰り返し利用できるリユース梱包や損傷しにくいスチール梱包の導入



新倉庫(2014年8月稼働予定)

梱包改善事例



付属品と本体の梱包を一体化することで体積を**21%削減**

地域の水資源・生物多様性を守るために 従業員ボランティアが中心となって 「シスメックスの森」での森林整備活動を推進

企業の社会的責任として森林整備活動を実施

森林には、雨水を貯め、水質を浄化する「水源涵養」と呼ばれる機能があるため、森林整備は水資源を確保するために欠かせない活動です。また、2010年10月に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）以降、日本でも生物多様性の大切さが認知されつつあり、多くの企業が多様な動植物を育む場としての森林を守り、育てる活動に取り組んでいます。

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用していることから、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置づけるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。こうした考えにもとづいて、2013年度には兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」（17ヘクタール）のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名づけ、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。

2013年5月に、来賓の皆様と従業員有志が参加して森開きの式典を執り行いました。今後、数年にわたって、水源涵養の観点から間伐や下草刈りといった森林整備作業を進めるとともに、生物多様性の保全に向けて巣箱設置や湿地整備、自生種育成、地掻き※などにも取り組みます。また、山道整備や景観整備、草花の植樹なども進め、人と自然が触れ合える活力ある里山の再生に取り組んでいきます。

※ 地掻き：地面に降り積もった落葉や枝などを取り除く作業。

従業員とその家族がボランティアとして活動を推進

初年度となる2013年度には、森開きを含めて2回の定期活動と5回の随時活動を実施し、参加者は家族も含めて延べ

写真①：シスメックスの森の風景　　写真②：森開き式典の集合写真

ステークホルダーの声

森開き以来、従業員ボランティアとして森林整備活動に参加しています。手入れによって日光の当たり具合や水の流れなど、見た目にもわかるほど大きく変化してきました。きっといきものたちの生態環境も変わってきていることと思います。日常とは異なる自然の中での活動は、子どもたちにとっては非常に貴重な体験であり、大人にとっても良いリフレッシュになります。今後も人といきものが憩える里山を目指し、他の従業員やその家族、地域の皆様と一緒に楽しく取り組んでいきたいと思います。

シスメックス国際試薬（株）　第二生産部 製造課 三係（小野工場）係長　**堂本 英里**

147名にのぼりました。

11月の定期活動では、30名以上の従業員とその家族がボランティア参加し、間伐や地掻き、山道の階段づくりなどの作業に取り組みました。陽が差して明るくなった森は、萌芽（ほうが）によってさらに多様な植生を育むことになります。また、随時活動においては、貴重な森林資源の循環使用をテーマとした取り組みを行っています。例えば、間伐したコナラの木を利用して食材用のシイタケ栽培、地掻きで集めた枝葉では腐葉土づくりやカブトムシなどの昆虫の生息環境づくりを行っています。

「シスメックスの森」の活動には幼少期の子どもたちも参加しています。子どもたちには、森林整備活動を通じて環境に対する意識を育んでほしいと考えています。

今後も地元自治体や森林組合、地域住民の皆様と協力・連携しながら、長期的視野に立って「シスメックスの森」を人といきものがともに憩える里山に再生していきます。

海外グループ各社でも環境保全につながる社会貢献活動を展開

シスメックスでは2013年度、「シスメックスの森」活動以外にも、国内外でさまざまな環境保全活動に取り組みました。例えば、米国の統括現地法人シスメックス・アメリカでは、従業員ボランティアが森林保全のための清掃活動に取り組み、シスメックス・ニュージーランドの従業員は、多様な植物が生息する海岸の清掃活動を実施しました。

今後もシスメックスでは、地球環境保全に貢献するために、地域に根差した社会貢献活動を推進していきます。

写真③：間伐作業　　写真④：地掻き作業　　写真⑤：山道の補修

「シスメックスの森」2013年度活動概要

間伐、下草刈りなど ➡ 水源涵養

専門機関による生物環境調査、地掻き、枝葉集積 ➡ 生物多様性保全

桜などの植樹、山道整備、花壇作成 ➡ 里山整備

中長期の目標を設定してCSR活動を推進

CSRへの取り組みを積極化するために、2013年4月、国連グローバル・コンパクト10原則と社会的責任に関する国際規格ISO26000を踏まえてCSR中期計画（2013～2015年度）を策定しました。この計画に基づいてCSR活動を推進し、社会的課題の解決を目指しています。

Network Japan
WE SUPPORT

区分	CSR中期目標	2013年度活動状況 ○：計画通り　△：一部未達		2014年度の活動計画
組織統治	①コンプライアンス体制の強化	○	・グループコンプライアンス体制を見直し、コンプライアンス委員会を設立。 ・グローバルコンプライアンス規程とグローバルコンプライアンスコードを改定。	・グローバルコンプライアンス規程とグローバルコンプライアンスコードのグループ内浸透。 ・グループ会社間の法務マネジメント体制の連携強化。
	②事業継続計画の拡充	○	・事業継続計画見直しのために、事業継続管理体制構築ワーキンググループの活動を開始。	・機能別事業継続マニュアルの完成。 ・事前対策計画（耐震強化・災害復旧対策など）の策定と実施。 ・「従業員とサプライチェーンにおける人権」と「気候変動」に関するリスクを加えて、リスクアセスメントを実施。
人権・労働慣行	③ダイバーシティーの推進	○	・育児・介護休業からのスムーズな復帰を支援する制度を開始。 ・障がい者用設備を充実。	・介護休業取得者に対する休業補償（給付金）の導入。 ・労務管理（ハラスメント、時間管理、ワーク・ライフ・バランス）に関する正しい理解を促進する研修を実施。 ・グローバル採用の推進、海外の方向けのインターンシップ制度の充実。
環境	④長期環境目標（エコビジョン2020）の達成に向けた活動の推進	△	・製品の環境配慮（RoHS指令※1対応など）を推進。 ・事業活動の環境負荷低減（電力、水使用量）は事業所の増改築や生産構成の変化のために2013年度目標未達。	・製品の小型軽量化・消費電力低減、梱包材の簡易梱包。 ・脱動物由来原料への切り替え。 ・RoHS指令適合宣言（2015年7月）の準備活動。 ・リモートサービスの推進。 ・航空便から船便への切り替えの促進。 ・事業所のエネルギー使用量の削減。 ・事業所の廃棄物リサイクル率の維持。 ・試薬工場の水使用量の削減。
公正な事業慣行	⑤公正な取引の推進	○	・贈収賄禁止法・独禁法の遵法体制検証、対応計画の立案。 ・シスメックスプロモーションコードの改定。	・海外贈収賄禁止法令、EU競争法に関する社内啓発。 ・遵守体制の外部評価。 ・サンシャイン法※2に基づく情報公開。
	⑥CSR調達の推進	○	・CSRを勘案した調達方針に改定。	・新しい調達方針を取引先と社内関係部門へ周知。 ・調達における人権、倫理・労働安全衛生への取り組みを表明し、取引先に対する遵守状況調査を実施。
消費者課題	⑦情報セキュリティーの強化	△	・業務面のセキュリティーリスク対策に注力。システム面のセキュリティーリスクには新CRMシステム※3で対応することとし、情報セキュリティーマネジメントシステム認証取得は延期。	・現状のセキュリティーレベルを向上させるため、部門システム運用の見直しおよび手順の文書化、教育を実施。
	⑧顧客満足の向上	○	・新CRMシステムを介したVOC活動※4を開始。	・新CRMシステムのVOC情報を分析して関係部門へ伝達。
コミュニティへの参画・発展	⑨社会貢献活動の推進	○	・地域社会貢献活動を実施（「シスメックスの森」での森林整備活動、神戸市から借受けしている歴史的建造物「みなと異人館」の一般公開など）。 ・従業員のボランティア活動支援制度（社会貢献ポイント制度）を導入。	・「社会貢献ポイント制度」の運用開始と関連施策の立案、実施。

※1 RoHS指令：EU（欧州連合）で販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属（鉛、カドミウム、水銀、六価クロム）と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤（PBB、PBDE）の使用全廃を要求したもの。
※2 サンシャイン法：製薬企業に対して医師や研修病院への支払いに関する情報公開を義務づける法律の通称。米国、フランスなどで制定されている。
※3 CRMシステム：お客様に関するさまざまな情報を一元的に管理するシステム。
※4 VOC活動：お客様の意見を収集・分析し、事業にフィードバックする活動。

グローバルトピックス

シスメックスが2013年度に取り組んだ世界各地域でのさまざまな
CSR活動のうち、主な活動をご紹介します。

P15

Japan

- 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬がGerman Design Awardを受賞
- 健康モニタリング装置「ASTRIM FIT」がグッドデザイン賞を受賞
- グローバルな人材の育成に注力
- お客様の日々の精度管理をサポート
- 神戸マラソンへの協賛

P17

Americas

- 働きやすい職場づくりや社会貢献活動が認められ、「Companies That Care Honor Roll」を6年連続受賞
- 従業員の成長を積極的に支援
- 多様性の尊重・働きやすい環境づくり
- 顧客満足度調査14年連続No.1
- ブラジルで子どもの生活や医療を支援

P19

EMEA（欧州・中東・アフリカ地域）

- 育児支援や健康促進施策を積極的に展開し、働きやすい職場づくりを推進
- 教育計画に個々の従業員のニーズを反映
- グローバルな人材交流
- 障がい者支援団体に一部業務を委託
- 乳がん啓発イベントに協賛

P21

China

- 医療現場が抱える問題を解決できるエンジニアを大学と共同で育成
- 安心・快適な職場づくりや積極的なコミュニケーションに注力
- 試薬生産工場におけるISO14001の認証取得
- 公正な取引を徹底するための従業員教育

P22

Asia Pacific

- APインターナショナルシスメックス学術セミナーを開催し17カ国500名以上が参加
- 従業員の結束力を強化するための活動を実施
- 環境保護活動に注力した事業所としてインドのバディ工場が表彰
- 新興国の精度管理を支援し、標準化に貢献
- 乳がん啓発イベントに協賛

グローバルトピックス

Japan

多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬が German Design Awardを受賞

2013年12月、シスメックスの多項目自動血球分析装置XNシリーズ「XN-2000」とXN用診断薬が、「German Design Award」(The German Design Council主催)を受賞しました。この賞は、すでに他の国際デザイン賞を受賞した作品であることがノミネートの条件であるため、ノミネート自体が名誉とされ、その審査の厳しさから「賞の中の賞」と呼ばれています。多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬は、2012年11月にドイツのデザイン賞「iF product design award 2013」を受賞したことにより、今回「German Design Award」にノミネートされました。

機能・性能の向上に加えて、ユーザーである臨床検査技師の方の負担軽減を重視したシスメックスの製品デザインコンセプト「サイレントデザイン®」の考え方から外観、ユーザビリティまでが高く評価され、ノミネートされた全1,900件以上の中から受賞した100件のうちの一つとして選ばれました。

多項目自動血球
分析装置 XN-2000

German Design Award
WINNER 2014

XN用診断薬

健康モニタリング装置「ASTRIM FIT」が グッドデザイン賞を受賞

ASTRIM FIT

GOOD DESIGN
AWARD 2013

2014年1月、シスメックスは採血することなく血液中のヘモグロビン推定値を測定できる「ASTRIM FIT」を発売しました。当製品は、高い機能をコンパクトにまとめたことと優しい造形表現が評価され、2013年度のグッドデザイン賞(公益財団法人日本デザイン振興会主催)を受賞しました。

従来製品よりもコンパクトで価格も約1/3に設定しているため、トップアスリートはもちろんのこと、2020年の東京オリンピックで中心となるユース世代の指導の場でのコンディション管理などにも活躍が期待されます。

人権・労働慣行

グローバルな人材の育成に注力

シスメックスでは、グローバルなビジネスの中核を担うグローバル人材の育成に注力しています。

若手社員層を対象として、海外現地法人へ派遣し実務経験を積ませる「グローバルアプレンティスプログラム」を2011年度から導入しています。このプログラムは、グローバルなキャリアを志望する社員を社内公募し、早期に海外業務経験の機会を提供することにより、将来のグローバル人材へと育成することを目的としたものです。帰国した制度利用者の一部が報告会を開き、海外の市場環境について見聞きしたことを報告するなど、海外の状況を国内に伝える手段としても役立っています。2013年度末までに、計13名がプログラムを利用し、海外に派遣されました。

さらに、2012年度からは、日本と海外グループの従業員同士の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る「グローバル人材交流プログラム」も導入しています（詳細はP.20参照）。

グローバルアプレンティスプログラムで交流を深める従業員

消費者課題

お客様の日々の精度管理をサポート

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために検査装置・試薬の精度を日々管理しています。一般には「コントロール」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を参考値ならびに日々の測定結果と比較することによって、検査装置・試薬の状態をチェックします。シスメックスは、このコントロールを提供してお客様の精度管理をサポートしています。さらに、お客様のもとにある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶSNCS（Sysmex Network Communication Systems）を構築しています。カスタマーサポートセンターでは、このSNCSを通じてお客様の検査装置から送られてくるコントロールの測定値を受信し、同じ検査装置の結果の集計や比較を行い、データ異常の予兆を察知・判定して結果を返信するサービスを提供しています。2013年度には新たに、SNCS回線を活用して装置の状態をリモートで巡回点検する「スマートメンテナンス」のサービスを一部製品で試験的に開始しました。

なお、2013年度には、このSNCSが「顧客満足度の向上と業務の効率化を両立させている」事例として評価され、日経コンピュータ（日経BP社）主催の優れたIT活用事例を表彰する「IT Japan Award 2013」においてグランプリ賞を受賞しました。

「IT Japan Award 2013」グランプリ賞の盾

コミュニティへの参画・発展

神戸マラソンへの協賛

神戸マラソンは、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込め、「感謝と友情」をテーマに開催されている市民マラソン大会です。シスメックス（株）は地元神戸の企業としてこのテーマに賛同するとともに、ヘルスケアにかかわる企業としてスポーツを通じた健康社会づくりに貢献したいという想いから、第1回大会より特別協賛しています。

2013年11月に開催された第3回大会では、約2万名分のランナーゼッケンの提供や、当社グループの従業員とその家族によるボランティア活動など、全面的に大会をサポートしました。また、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展し、採血なしで血中ヘモグロビン推定値が測定できる当社製品ASTRIMによる健康状態のチェックや、シスメックス女子陸上競技部によるストレッチ講座やトークショーを実施しました。

2014年11月に開催される第4回大会においても大会のサポートを通じて地元神戸の活性化に寄与していきます。

第3回 神戸マラソンでの給水ボランティア活動

グローバルトピックス

Americas

働きやすい職場づくりや社会貢献活動が認められ、「Companies That Care Honor Roll」を6年連続受賞

シスメックス・アメリカでは、従業員の働きやすさに配慮した環境づくりに加え、コミュニティにおける社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

長年にわたりヘルスケアの分野で事業展開してきた同社では、健康という側面からより良い社会づくりへの貢献を目指し、アメリカ癌学会、アメリカ心臓学会、白血病リンパ腫協会などへの寄付を継続して実施しています。2013年度は合計で10万ドル以上を寄付しました。また、これらの団体が開催するイベントには従業員もボランティアとして積極的に参加しています。

さらに、2013年度にはNPO「Northern Illinois Food Bank」が実施した恵まれない人々に食料を配給する活動に、会社として協賛するとともに20名以上の従業員がボランティアとして参加し、食料のパッキングなどを手伝いました。また、この他にも近隣の森林保全など、さまざまな活動に取り組んでいます。

これらの取り組みが認められ、シスメックス・アメリカは米国のNPOが主催する「Companies That Care Honor Roll 2014」を受賞しました。この賞は社会貢献活動や働きやすい職場づくりなどに積極的に取り組んでいる企業に与えられるもので、シスメックス・アメリカは、6年連続で受賞しています。

森林保全のための清掃活動

食料配給活動に参加した従業員ボランティア

人権・労働慣行

従業員の成長を積極的に支援

シスメックス・アメリカでは、新入社員に対して60日間のオリエンテーション・研修を実施するとともに、全従業員を対象としたeラーニングプログラムを用意しています。さらに、従業員が大学などで自主的に学ぶことを支援する奨学金制度も導入し、大学で学ぶ場合は、成績に応じて最大5,250ドルまで、大学院で学ぶ場合は、10,000ドルまでの費用を会社から支給しています。

また2013年度には、経営管理強化やリーダーシップ向上を目的とした研修「シスメックスマネジメントアカデミー」を実施し、米州地域の管理職30名以上が参加しました。

シスメックスマネジメントアカデミーの受講者

多様性の尊重・働きやすい環境づくり

シスメックス・アメリカでは、多様性の実現に向けて、「アファーマティブアクションプログラム(差別撤廃プログラム)」を策定し、実行しています。また、多様な働き方が可能な職場づくりにも注力しており、フレックスタイムでの勤務や在宅勤務なども可能なことに加え、外部サービス会社と契約して、急に家族が病気になった場合などにサポートが受けられるようにしています。さらに、社内にフィットネスジムを設けるなど、健康の維持・向上にも注力しています。

こうした取り組みが評価され、外部機関を通じて実施している従業員満足度調査においても、高い満足度を実現しています。また、2013年度には、会社と従業員とが強い結びつきを持っていることなどが評価され、シカゴトリビューン紙が地域の優れた職場を表彰する「Top Workplaces」の1社に選ばれました。

消費者課題

顧客満足度調査14年連続No.1

シスメックスでは、1979年に米国子会社を設立し、2003年に現地での直接販売・サービスを開始して以来、顧客満足度の向上を目指してきました。オンラインネットワークサポートサービスSNCS(Sysmex Network Communication Systems)を通じたお客様の装置の安定稼働のサポートや、専用スタジオからお客様に向けて装置の操作方法をライブ中継するバーチャルカスタマートレーニングなど、充実したサポートを提供し、多くのお客様から好評を博しています。

こうした取り組みの成果として、外部団体による血球分析装置メーカーに関する顧客満足度調査※では、14年連続で満足度No.1を獲得しています。また、eメールや郵便による独自のアンケート調査も実施しており、2013年11月に実施した調査では、10.0点満点中9.1点となっています。

※ 米国IMV社によるユーザー調査(IMV Service Track)。

コミュニティへの参画・発展

ブラジルで子どもの生活や医療を支援

シスメックス・ブラジルは2013年度、トレーラーで地域をまわり、ショーやクリスマスプレゼントを提供する「The trailer of Mr. Manuel」プロジェクトを支援しました。このプロジェクトに参加した子どもとご家族は、延べ1万6,000名以上にのぼります。また、孤児や貧困な子どもたちに手を差し伸べている団体「São Roque」に協力し、シスメックス・ブラジルの工場で子どもたちの合唱団による発表会を開催しました。

さらに同社では、小児医療の普及に取り組んでいる「Little Prince Pediatric Hospital」を5年間継続して支援しており、2013年度には「Advances in Health Treatment for the Right to Live」と題された、先進的なダイアグノティクス研究や小児医療の知識普及などを目指すプロジェクトに協力しました。

合唱団による発表会

グローバルトピックス

EMEA（欧州・中東・アフリカ地域）

育児支援や健康促進施策を積極的に展開し、
働きやすい職場づくりを推進

シスメックス・ヨーロッパとシスメックス・ドイツでは、従業員の働きやすい職場づくりのために、さまざまな制度や設備を整えています。例えば、子育て中の共働きの従業員のために、子ども一人につき毎月50ユーロを3歳まで支給する育児支援金制度などを設けています。また、栄養士や心理療法士によるカウンセリングの実施や、社内にフィットネスルームを設置するなど、従業員の心身の健康促進に注力しています。

2013年度には、調査機関が実施している「Great Place to Work」コンペティションに2度目の応募をし、従業員50～500名のカテゴリで、参加したドイツの企業100社中50位（前回は64位）に選ばれました。また、今後は、EMEA地域全体を対象として、自社独自の従業員満足度調査も実施していきます。

心身の健康を促進するための主な施策

- ヨガ、ピラティス、バドミントン、ボクシングなどのスポーツコースを提供（定期参加の場合、無料）
- 定期的なスポーツ活動への補助（フィールド勤務者：月50ユーロ）
- 栄養士によるカウンセリング（無料）
- 心理療法士によるカウンセリング（無料）
- マッサージの提供（費用の50%を会社が負担）

人権・労働慣行

教育計画に個々の従業員のニーズを反映

シスメックス・ヨーロッパでは人材開発チームが年間教育計画を設定・実行するとともに、その効果の検証にあたっています。また、教育計画には、上司や人事部門との面談などの際に集めた個々の従業員の教育に関するニーズも反映しています。

こうした体制のもとで、新入社員研修やマネジメントスキル研修、また「つながりプログラム」と題したEMEA地域全体の管理職向けのリーダーシップ研修、従業員が他の従業員を教育・指導する「シスメックススクール」などを毎年実施し、従業員の成長を支援しています。

つながりプログラム

グローバルな人材交流

シスメックスでは、2012年度からは、日本と海外グループの従業員同士の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る「グローバル人材交流プログラム」を導入しています。

2013年度は、11月にドイツ、ハンガリー、チェコの従業員を日本に招き、神戸本社での業務体験やディスカッション・フォーラムへの参加、東京・名古屋・大阪にあるお客様の研究所などへの訪問を実施しました。2014年1月には、日本人従業員がドイツにあるシスメックス・ヨーロッパを訪問し、業務体験やお客様訪問を通じて交流を深めました。

業務体験を通じた他地域従業員との交流

コミュニティへの参画・発展

障がい者支援団体に一部業務を委託

シスメックス・ヨーロッパの試薬工場では、材料の選別などを障がい者の自立支援に取り組んでいる団体に業務委託し、障がい者の方々に自社の製造ラインで作業に取り組んでいただいています。

シスメックス・ヨーロッパでは、障がい者を雇用している企業に、機密文書をシュレッダーにかける作業などを委託しています。

乳がん啓発イベントに協賛

シスメックス・ヨーロッパは、「DigniLife™」ブランドのもと、がんの化学療法にともなう脱毛を頭皮冷却によって低減する製品を展開し、がん患者さんのQOL向上への貢献を目指しています。2013年9月には、ドイツ・ハンブルクの市立公園で開催されたランニングイベント「Komen Race for the Cure」に、このブランドとして協賛しました。このレースは、乳がんに関する認知度を高め、患者さんとそのご家族を勇気づけるためのイベントで、同時に乳がんに関する教育プロジェクトに活用するための募金なども行われます。シスメックス・ヨーロッパは「DigniLife™」のブースを出展し、頭皮冷却や髪のメンテナンスに関する情報を提供するとともに、実際に頭皮温度を下げて効果があることも体験していただきました。

また、レース自体にも従業員27名が「DigniLife™」チームとして参加し、総勢1,700名の参加者の中で7番目に大きなチームとなりました。参加者からは「感動的な雰囲気に感銘を受け、また病ある人を勇気づけるイベントに参加できたことに大きな意義を感じた」などの声がありました。

レースに参加した「DigniLife™」チームメンバー

出展した「DigniLife™」ブース

グローバルトピックス

China

医療現場が抱える問題を解決できる
エンジニアを大学と共同で育成

2013年7月、シスメックス・上海はShanghai Medical Instrumentation College（SMIC）との共同プロジェクトとして、臨床検査機器のエンジニアを養成する研修拠点を開設しました。

教育経験に優れたSMICの教員・研究者と、豊富な実務経験と技能を持つシスメックス・上海のエンジニアが力を合わせ、意欲ある人材を効果的に教育・指導することで、中国の医療現場が抱える問題を解決できる優秀なエンジニアを育成していきます。

調印式

SMIC

人権・労働慣行

安心・快適な職場づくりや積極的なコミュニケーションに注力

中国の2つの試薬生産工場の1つである済南工場では、従業員が安心して快適に働ける職場づくりに注力しています。作業室は、労働安全衛生に配慮することはもちろんのこと、リフレッシュ効果が高いといわれる自然光を取り入れ、明るく健やかな空間を形成しています。さらに、食堂やレクリエーション室などの福利厚生施設を充実させるとともに、屋外にビオトープや散策小路なども設け、自然に触れることでリフレッシュできるようにしています。

もう一方の試薬生産工場、無錫工場では、従業員満足度調査を実施しており、2013年度の満足度は全調査項目で70%以上となっています。

環境

試薬生産工場におけるISO14001の認証取得

シスメックスでは、グループ全体で環境マネジメントの国際規格である「ISO14001」の認証取得を進めており、2013年6月には、中国の無錫工場が新たに認証を取得しました。

公正な事業慣行

公正な取引を徹底するための従業員教育

シスメックスでは、汚職を防止し公正な取引を徹底するために、コンプライアンスハンドブックを作成して従業員に配布するとともに教育を実施しています。

中国地域のグループ会社では、2013年度に新入社員、販売・マーケティング部門の従業員、会計部門の従業員、管理職層などに加え、代理店の方々に対しても腐敗防止と独占禁止法に関する研修を実施しました。

グローバルトピックス

Asia Pacific

APインターナショナルシスメックス学術セミナーを開催し
17カ国500名以上が参加

2013年10月8日～9日、マレーシア・クアラルンプールにおいて第4回APインターナショナルシスメックス学術セミナーが開催されました。アジアでのセミナーとして過去最高となる17カ国から500名以上のお客様にご参加いただきました。

今回は、「Adding New Dimensions to Diagnostics（検査診断に新たな展開をもたらす）」をテーマに、7カ国12名の講師の方々から、臨床診断への応用、ケーススタディなど、幅広い有意義な話題が提供されました。

第4回APインターナショナルシスメックス学術セミナー

オープニングの様子

人権・労働慣行

従業員の結束力を強化するための活動を実施

2013年度、アジア・パシフィック地域のグループ会社では、従業員の結束力を強化するための活動を実施しました。

ディスカッションやワークショップを開催するとともに、森林トレッキングやスポーツを通じて、リーダーシップやチームワークの醸成に取り組みました。

環境

環境保護活動に注力した事業所として インドのバディ工場が表彰

2014年4月、シスメックス・インディアのバディ工場が、地元の産業協会から「環境保護活動に注力した小規模産業事業所」として他の8社とともに表彰を受けました。

バディ地域はインドの中でも大規模な産業地域の一つであり、3,000以上の企業が立地しています。

消費者課題

新興国の精度管理を支援し、標準化に貢献

シスメックスでは、新興国の検査の標準化に貢献するために、現地の政府・行政や学会とともに外部精度管理※などの支援に取り組んでいます。モンゴルでは、当社の検査機器を基準器とした外部精度管理が実施されています。また、タイ、フィリピンなどでも標準化のための各種支援を実施しています。

※ 外部精度管理：自施設の検査機器の測定データと他施設や基準器（基準となる測定データを出す機器）の測定データを比較することで精度を確認すること。

コミュニティへの参画・発展

乳がん啓発イベントに協賛

シスメックス・マレーシアは、「Greener Sysmex」と題した、従業員が積極的に推進するCSR活動の一環として2013年10月に拠点近隣で開催されたチャリティランニングイベント「The Pink Charity Run」に協賛しました。このイベントは、地元の病院グループ主催で、乳がんに関する啓発と、患者支援団体などへの寄付を募る目的で開催されています。

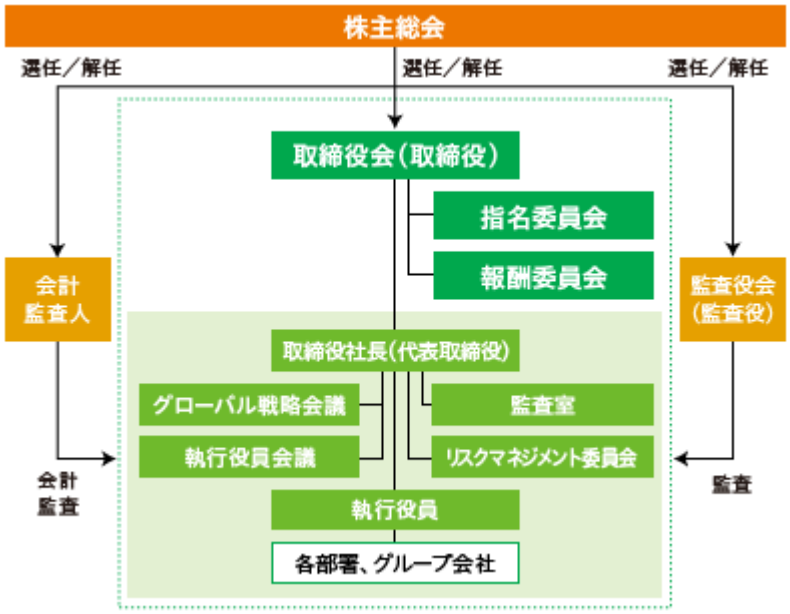
コーポレート・ガバナンス

経営の健全性と透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上

シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけており、経営の健全性と透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指しています。

取締役会は社外取締役1名を含む取締役9名で構成し、重要な経営の意思決定ならびに会社の業務執行の監督を行います。取締役会の中には、委員会設置会社と同様の役割を持つ指名委員会と報酬委員会を設置しています。また、当社は監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む4名で構成する監査役会が、独立した立場から客観的に取締役の職務遂行を監視しています。さらに、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応できるよう、2005年4月から執行役員制度を導入しています。執行役員は18名で、うち7名が取締役兼任です。そして、グループの経営の方向性や重要な戦略上の課題を審議するグローバル戦略会議および取締役社長の意思決定のための諮問機関としてグループの業務全般の重要事項を審議する執行役員会議を設置しています。

コーポレート・ガバナンス体制



内部統制システムの運用

シスメックスでは、2007年度の内部統制システムに関する取締役会決議に基づき、コンプライアンス、情報の保存・管理、リスク管理、効率的な職務執行、グループ会社管理、監査について体制を整備し、着実な運用を推進しています。

また、2008年度に「財務報告に係る内部統制管理規程」を制定するとともに、社長の諮問機関として「財務報告に係る内部統制委員会」を設置し、グループ全体の内部統制システムを構築し、適正な運用に取り組んでいます。事業環境が著しく変化する中で、内部統制の有効性が損なわれることがないようにするため、関連部門の従業員への教育・啓蒙活動に注力し、継続的な改善を促進しています。

コンプライアンス

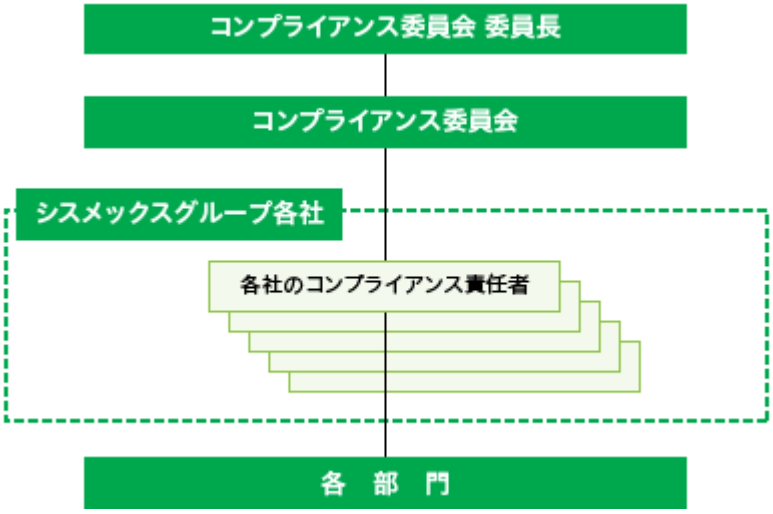
「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、コンプライアンスをグループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」であると定義しています。

この定義に基づいて、役員と従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定し、教育を行い、浸透を図っています。同コードはグループ会社にも適用し、遵守する体制を整えています。

2013年10月には、コンプライアンスの体制を見直し、リスクマネジメント委員会から独立して、「コンプライアンス委員会」を設置しました。また、グループのコンプライアンス統括責任者と関係会社のコンプライアンス責任者との連携を強化してコンプライアンスを推進できる体制にしました。2014年5月にはグローバルコンプライアンスコードについても内容を見直し、研究開発に関する倫理、贈収賄禁止、世界人権宣言など配慮すべき国際規範の支持や研究開発に関する考え方などを追記しています。また、社内外の環境変化などに対応するため、原則として2年に一度見直しを行うことを附則に明記しました。

■ コンプライアンス体制



グローバルコンプライアンスコード

1. **お客様への安全と安心の提供**
   私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。
2. **公正な取引と自由な競争の推進**
   私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。
3. **公平・適正な情報開示と情報管理の徹底**
   私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。
4. **適正な研究開発活動の実施**
   私たちは、研究開発を行うにあたっては、被験者の尊厳及び人権を守るとともに、遺伝子や他の研究におけるプライバシーを保護し、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。
5. **知的財産権の尊重**
   私たちは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。
6. **国際的な平和と安全の維持**
   私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。
7. **適正な会計処理と納税の実施**
   私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。
8. **人権の尊重と安全・衛生の向上**
   私たちは、世界人権宣言、ILO中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。
9. **公私のけじめと利益相反行為の禁止**
   私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品ならびに情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。
10. **社会との健全な関係の保持**
    私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。
11. **地球環境の保護**
    私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

2014年05月改定

コンプライアンス教育を継続して実施

グループ各社にコンプライアンス責任者を設置し、コンプライアンス教育を実施しています。

国内グループ会社では、入社した従業員に「コンプライアンスハンドブック」を配付し、全従業員への周知・浸透を図っています。

また、シスメックス(株)は、定期的なコンプライアンス教育に加え、毎年重点テーマを設定し、各テーマに関連する部門に対して教育を実施しています。2013年度は、「情報管理」「公務員との適切な関係」「医療機関等との関係の透明性確保」に関する教育を実施しました。

一方、海外グループ会社については、各国の状況に合わせてコンプライアンス教育を実施しています。

2013年度の主なコンプライアンス教育実績

(1) 情報管理(個人情報、企業機密の保護、漏洩に関する留意点)

・eラーニングによる全従業員への教育を実施
・営業部門の係長以上に研修を実施

(2) 公務員との適切な関係

・役員向けセミナーを実施
・営業部門の係長以上に研修を実施

(3) 医療機関等との関係の透明性確保(医療機関への支払情報の公開に関する海外のサンシャイン法※、国内の透明性ガイドラインへの対応)

・各部門の代表者に研修を実施
・海外の関係会社にイントラネットで周知を徹底(サンシャイン法について)

(4) 薬事法

・販売、サービス、開発、生産部門を対象に実施

(5) 安全保障貿易管理

・実務担当者、新規入社者を対象に実施

(6) 経理、税務

・新任役職者を対象に実施

(7) 労務管理・ハラスメント

・役職者を対象に実施

(8) 環境

・対象部門に環境マネジメントシステムの基礎教育を実施

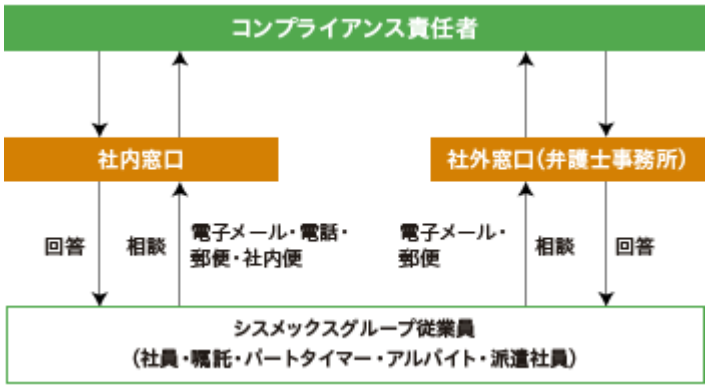
※ サンシャイン法:製薬企業に対して医師や研修病院への支払いに関する情報公開を義務づける法律の通称。米国、フランスなどで制定されている。

内部通報制度

国内グループ向けの内部通報制度「カンパニュラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電話、郵便、電子メールによる相談や通報を受け付けています。

寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。また、海外グループ会社でも内部通報制度を設置しています。

内部通報制度「カンパニュラライン」



安全保障貿易の管理体制を整備

シスメックスは、「安全保障貿易管理規程」に基づいて、安全保障貿易管理体制の強化に努め、輸出先や貿易貨物・技術の使用用途の確認を徹底しています。

2013年度には、安全保障貿易ならびに米国再輸出規制について全社向けのeラーニングを実施し、管理の徹底を図りました。さらに、監査を実施して部門の責任者、担当者の意識向上を推進しました。また、グループ全体の安全保障管理体制を強化するために、海外の統括現地法人にERP（企業資源計画）システムと連携する管理システムを導入し、管理の徹底と効率化を推進しています。

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。

新製品の開発プロジェクトごとに、自社の知的財産を確保するための出願活動や第三者の知的財産情報のパテントレビューを実施しています。その中で知的財産部門の担当者と研究開発者をメンバーとする「出願検討会」を開催して、開発中の技術に関して特許出願の方針、計画を立案しています。また、第三者の知的財産権を調査し、知的財産に関わるリスクを低減しています。

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、臨床研究開発やヒトゲノム・遺伝子の解析研究に取り組む企業として、「人間の尊厳の尊重」「個人情報の保護の徹底」などを基本方針とする「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社Webサイトで公開し、透明性を確保しています。

また、動物実験および遺伝子組換え実験に関しても、「実験管理委員会」を設置し、実験計画が関連法規制に準拠しているかを厳格に審議しています。

プロモーションコードに従って公正取引を推進

シスメックスは、グローバル・コンパクトの10原則の一つである「10.企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の実践に努めています。

贈収賄などの不適切な行為を防止し、公正な取引を確保するための行動基準として「シスメックスプロモーションコード（SPC）」を制定し、コンプライアンス委員会の下部組織である公正な取引推進部会が従業員のSPC遵守に向けた意識向上のために、啓発活動を実施しています。2013年度には、「公務員との適切な関係」「医療機関等との関係の透明性確保」に関する教育を実施しました。

医療機関等との関係の透明性に関する指針

はじめに

シスメックスは、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をグループ企業理念に掲げ、お客様をはじめとする、さまざまなステークホルダーの皆様に安心をお届けすることを目指して事業活動に取り組んでいます。当社では、研究開発から生産、販売、サービス＆サポートに至るまでのすべての段階で、医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、私たちの事業活動が高い倫理観に基づいて行われていることを、広く社会からご理解をいただくことが重要であると考えています。

2012年に、一般社団法人日本臨床検査薬協会において企業活動と医療機関等の関係の透明性を確保するためのガイドラインが制定されましたので、当社もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開していきます。

公開方法

当社 Webサイト等を通じて、前年度分の関連情報について公開します。

公開時期

2013年度分を2014年度から公開します。

公開対象

一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に基づきます。

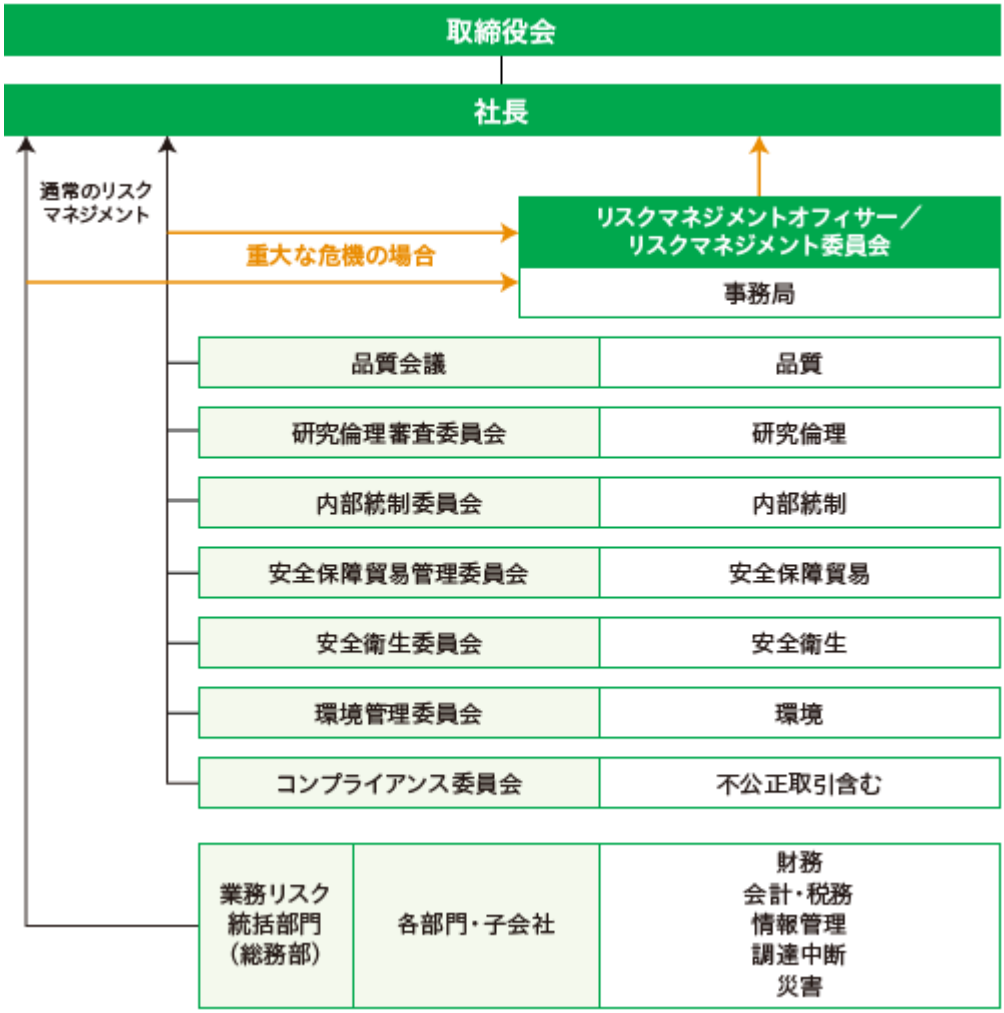
リスクマネジメント

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、最高責任者「リスクマネジメントオフィサー」を委員長とする「リスクマネジメント委員会」（RM委員会）を設置しています。RM委員会では、グループとして事業に与える影響が大きい重要リスクの特定や、各部門・関係会社が実施したリスク対策・モニタリング結果を継続して監視しています。

また2013年度には、より迅速かつ確実なリスク対応を目指して、RM委員会を含むリスクマネジメント体制全体を見直しました。たとえば、通常のリスクマネジメントに関してはRM委員会以外の各委員会および部門・関係会社が自律的に業務リスクに対応し、RM委員会ではグループの重要リスクに対応するよう責任と役割を明確にすることで、通常のリスク対応がより確実に行われるようにしました。また、危機発生時の対応についてもより一層迅速に対応できるよう体制を見直しています。

■ リスクマネジメント体制



災害対応に注力

シスメックスでは、リスクマネジメントのなかでも災害対応を重視し、緊急時に迅速に対応できる体制づくりに取り組んでいます。2013年度は、「自社被災対応基準」を見直し、グループ全体で活用できる緊急対応の基準としました。さらに、緊急連絡手段としてシスメックス（株）で導入している「安否確認ツール」を国内関係会社にも導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制を整えました。また、定期的に防災訓練を実施し、災害時にとるべき行動の浸透を図っています。

シスメックス（株）が運用するグループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一、災害等の発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかに遠隔地のバックアップシステムへ処理を移行できるように、2013年度にバックアップ基盤を構築しました。

情報セキュリティー

シスメックスでは、お客様や研究開発などの実験に協力いただいた方々からお預かりしている情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つとみなし、その顕在化防止に取り組んでいます。

そのため、シスメックス（株）と国内関係会社では、本部長以下の全従業員を対象として、情報管理の重要性に対する意識向上と企業秘密管理ルールの運用定着を目的とする研修を継続的に実施しています。

CSRマネジメント

シスメックスのCSRは「Sysmex Way」の実践を通じて皆様に「安心」をお届けすること

シスメックスのCSRとは、シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けすることと考えています。「Sysmex Way」は、企業活動の最も基本的なあり方を示したもので、シスメックスが社会に貢献し、そして成長し続けるために必要なMission、Value、Mindの3つの要素で構成しています。Missionでは、創業から取り組んできた「ダイアグノスティクス（検体検査）」分野を事業の核としながら、より広く、より深く人々の健康に関わる「ヘルスケア」の領域での進化に挑戦し、豊かで、健やかな、歓びに満ちた社会づくりに貢献していくことを表明しています。

さらに「行動基準」では、お客様、従業員、取引先、株主、社会というそれぞれのステークホルダーの皆様に対する具体的な提供価値を明確にしています。たとえば、社会に対しては、法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進し、社会のすべての皆様に安心をお届けしていくことや、環境問題をはじめ地球や社会が抱えるさまざまな問題の解決に、社会と共に取り組んでいくことを大切にしています。

また、2011年2月には、CSRへの取り組みをさらに積極化するために、国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関わる10原則の実践に取り組んでいます。

THE GLOBAL COMPACT
Network Japan
WE SUPPORT

■ 国連グローバル・コンパクトの10原則

人権	1. 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである。
	2. 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働	3. 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持すべきである。
	4. 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである。
	5. 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである。
	6. 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	7. 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである。
	8. 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである。
	9. 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	10. 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

さまざまなステークホルダーとの直接対話を推進

シスメックスは、ステークホルダーの皆様と直接対話する機会を大切にし、いただいたご意見・ご要望を事業活動に活かしています。

2013年度の主な対話実績

お客様

- 各地域で顧客満足度調査を実施（シスメックス（株）と海外各地域のグループ会社）
- 学術セミナーを各地域で開催（シスメックス（株）と海外各地域のグループ会社）
- お客様のフィードバックを取り入れたカスタマートレーニングプログラムを各地域で継続的に実施（シスメックス（株）と海外各地域のグループ会社）

従業員

- 全社員を対象とした自己申告制度により、海外勤務の希望の有無や職種の変更を含むキャリア設計に関する希望を調査し、人事ローテーションを行うための情報として活用（シスメックス（株））
- 労働組合との団体交渉や、労働環境改善などについて議論する労使協議会を開催（シスメックス（株））

取引先

- 「創立45周年シスメックスサプライヤー会」を開催し、調達先の皆様へ日頃の感謝をお伝えするとともに、BCP（事業継続計画）について共に考える機会を提供（シスメックス（株））

株主・投資家

- 機関投資家・アナリスト向けのフランス・ロシアIR見学会を開催(シスメックス(株))
- 機関投資家・アナリスト向けの第11回技術説明会を開催（シスメックス（株））
- 個人投資家向けの会社説明会を開催（シスメックス（株））
- 株主様会社見学会を開催(シスメックス(株))

地域住民

- 研究開発拠点「テクノパーク」で地域交流イベントを開催（シスメックス（株））
- 高校生向け理数系教育イベント「第6回サイエンスフェアin兵庫」に参加（シスメックス（株））
- NPOの活動の一つである「Aim High Urban Mentoring Initiative」に参加し、地元高校生を支援（シスメックス・アメリカ）

お客様との関わり

― 行動基準 ―

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

品質の確保

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組みます。

2007年5月改定

グローバルな品質マネジメントシステム

シスメックスでは、「品質方針」「行動基準」および「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。

品質マネジメントシステムについては、開発・生産機能を持つほぼすべてのグループ会社で国際規格ISO9001またはISO13485※1に則ったマネジメントシステムを構築しており、グループ全56社中37社がISO9001の、18社がISO13485の認証を取得しています。これらのマネジメントシステムが確実に運用されていることを確認するために主要なグループ会社の品質活動についてマネジメントレビューや品質監査を実施しています。

教育については、全従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした専門的な品質教育も実施しています。2013年度は、FDAやカナダ医療機器法規則に関する教育などを実施しました。

さらに、グループ全体で品質に関する情報を共有し、体制を強化するために、毎年1回、シスメックス(株)と、米州、EMEA※2、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人や関係会社から品質関連部門の担当者が参加する「グローバルRAQA(レギュラトリーアフェアズ・クオリティ アシュアランス)会議」を開催しています。

グローバルRAQA会議でのセッション

※1 ISO13485:医療機器産業向けの品質マネジメントシステム規格。

※2 EMEA:欧州、中東、アフリカ地域。

製品の品質を確保するために

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守るうえで極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

新製品の開発においては、市場に導入するまでのプロセスにおいて5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。このほか、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。

さらに、2011年4月から導入したグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集しています。不具合情報を入手した際は、直ちに原因を究明し不具合品の市場流出を防止しています。2013年度はこの体制を強化するため、グローバルに不具合情報や是正処置・予防処置を共有するための電子システムを構築しました。

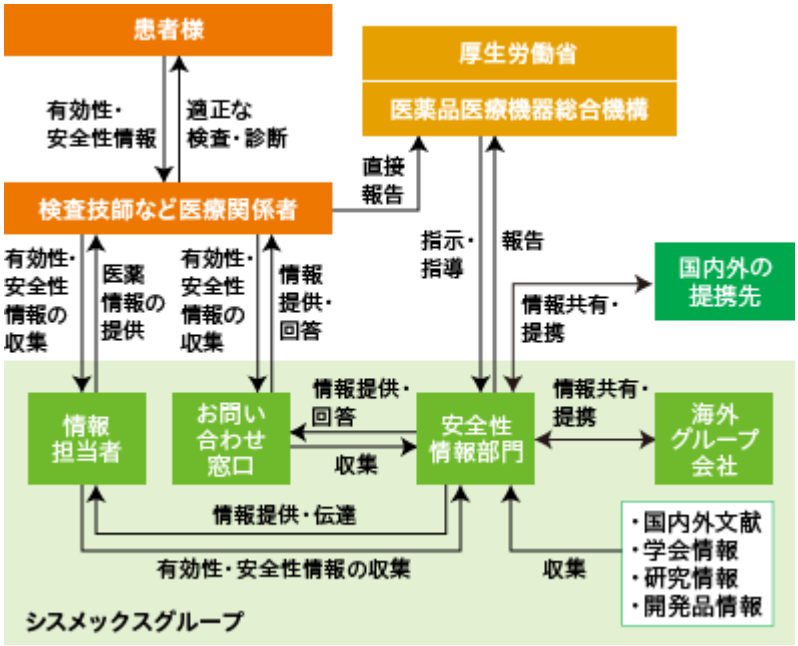
安全性・品質に関する情報

お客様からの情報を社内で共有化

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する安全性情報部門を設置しています。

お客様などから寄せられた品質や安全性に関する情報を調査・分析し、その結果をお客様にお伝えするとともに、当社設計・製造部門などの関連部門と共有することで、品質の改善や新製品の開発などに活かしています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



Webサイトで回収・改修の情報を開示

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を「製品に関する重要なお知らせ」としWebサイトに掲載しています。

偽装試薬への注意喚起を実施

シスメックスでは、正確な検査結果を確保するために、医療機関のお客様には純正の装置と試薬のセットで使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬を偽装した試薬の流通が発見されています。これら偽装試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が確保できず、場合によっては患者様に健康被害をもたらす危険性もあります。

こうした偽装試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、偽装試薬を発見した場合は、現地新聞に注意喚起を促す広告を出すように努め、また、各国の行政への協力や、必要に応じて司法への告発などに取り組んでいます。

サービス&サポート

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

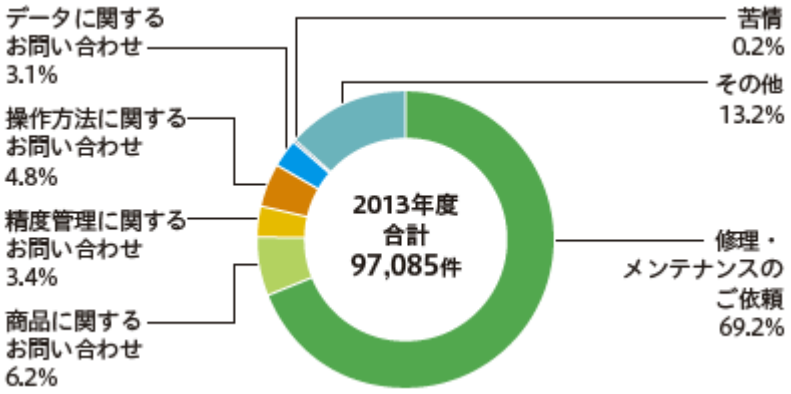
シスメックス(株)では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、24時間365日体制(別途契約が必要)でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

2013年度には、お客様の声を分析し、関係者に情報をフィードバックする専門部署「VOCグループ課」をセンター内に立ち上げました。単にお困りごとに対応するだけではなく、新たな付加価値を生み出せるような対応を目指し、将来的には、グローバルに取り組みを展開していきたいと考えています。

なお、相談窓口は米州、EMEA※、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人にも設置しています。

※ EMEA:欧州、中東、アフリカ地域。

■ カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳



カスタマーサポートセンターでのお問い合わせ対応

精度管理の質を向上するため、ISOを活用

シスメックス(株)は2013年度、当社が提供している血球分析装置の校正サービスについてISO/IEC 17025※1の認定を取得しました。また、一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、その他の検査における外部精度管理サービスであるSNCS※2とeQAPi※3に関して、臨床検査分野のみならず全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043※4の認定を取得しました。

これによって当社は、国際規格で認定された校正機関および外部精度管理(技能試験)提供者として、お客様により価値の高いサービスを提供することができるようになりました。

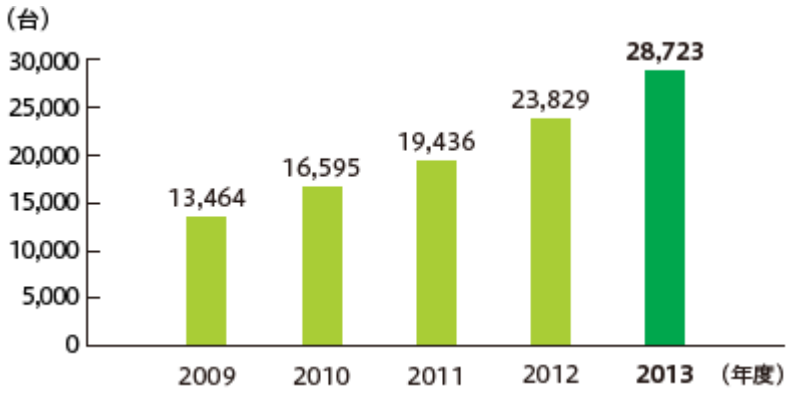
※1 ISO/IEC 17025:「試験所および校正機関の能力に関する一般要求事項」の国際規格。

※2 SNCS:上記記事「お客様の日々の精度管理をサポート」参照。

※3 eQAPi:大規模なリアルタイム外部精度管理サービス。リアルタイムに測定データの判定結果が得られ、日常検査の精度向上に役立てられる。

※4 ISO/IEC 17043:「適合性評価−技能試験に対する一般要求事項」の国際規格。

■ オンライン精度管理サービス（SNCS、eQAPi）に登録いただいている検査装置の世界累計



顧客満足度の向上

顧客満足度の調査

シスメックス（株）では、全国規模の学会や展示会にご来場いただいたお客様に、「シスメックスの営業・サービス活動に対する評価」のアンケート調査を実施しています。いただいたご要望やご意見には迅速に対応・改善し、お客様の満足度向上に努めています。また、新製品を購入いただいたお客様には、製品の機能、操作性に関するご意見・ご感想を直接お伺いし、製品開発部門にフィードバックしています。こうした取り組みに加えて、お客様に関するさまざまな情報を一元的に管理できるCRM（カスタマーリレーションシップマネジメント）システムの構築を進めています。2013年度には、営業関連のシステムを部分的に稼働しました。今後は当システムを活用して、個々のお客様にあわせたきめ細かな提案を図っていきます。

海外のお客様については、来日された際の事業所・工場見学の機会などにご意見を伺うとともに、海外グループ各社が、独自に顧客満足度の調査をしています。

取扱説明書のユーザビリティ改善による顧客満足度向上

シスメックスでは2013年度、顧客満足の向上を目指して取扱説明書の改善を実施しました。改善にあたっては、まずコールセンターへの問い合わせ内容と取扱説明書の記載内容を照合するなどして課題を抽出。次に、これらの課題を改善した取扱説明書を試作し、国内外で実際のユーザーに評価していただきました。

そこでいただいた意見を踏まえ、さらには人間中心設計手法を活用することでユーザビリティに優れた取扱説明書を作成することができました。

安定供給

医療に不可欠な製品を安定提供するために

シスメックスでは、検査機器に関して、製品ごと・拠点ごとに適正在庫を設定し、常に安定した供給ができるようにしています。さらに、グローバルな需要拡大に備えるために、兵庫県加古川市に機器生産工場「アイ スクエア」を設立し、2014年6月に竣工しました。新工場「アイ スクエア」は、安定供給に配慮して地震発生時にも生産インフラや倉庫を保護する免震構造などを採用しています。また、2013年度にはシスメックスメディカとシスメックスRAの工場も拡張しました。

試薬においても、さまざまな角度から安定供給に努めており、シスメックス(株)での適正在庫の管理を完了させました。また、災害時に備えた対応として、海外生産によるリスク分散や調達リスクのある原材料の代替化も進めています。

さらに、安定供給のための設備更新も進めており、2013年度には試薬製造を担うシスメックス国際試薬の工場で、試薬製品を保管する冷蔵庫2基および冷凍庫2基の冷却機を、1系統から2系統へ更新しました。1系統が故障しても、もう一方の系統で規定温度を保持できる能力があるため、故障により規定温度を逸脱したために多くの試薬が出荷できなくなるというリスクが低減されました。

アイ スクエア(加古川新工場)

機器生産拠点の概要

	シスメックス(株) (アイ スクエア)	シスメックス(株) (既存工場)	シスメックスメディカ (既存工場の拡張)	シスメックスRA (既存工場の拡張)
所在地	兵庫県加古川市 野口町	兵庫県加古川市 野口町	兵庫県姫路市 夢前町	長野県塩尻市 広丘野村
敷地面積	約30,000m^2	約12,000m^2	約7,300m^2	約6,100m^2
延べ床面積	約20,000m^2	約9,800m^2	約4,400m^2	約6,000m^2
投資額	39億円	—	5億円	3億円
主な生産品目	高機能モデル	コンパクトモデル	高機能ユニット	検体検査機器 の周辺機器

学術活動

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスは、医師や臨床検査技師などの医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会を開催し、学術情報を発信しています。

2013年6月には、神戸・東京・仙台・福岡の4会場を衛星中継で結び、第36回シスメックス学術セミナーを開催しました。今回のテーマは「造血・免疫組織はワンダーランド　～病理検査と血液検査の溝を埋めるとともに 診断・治療技術の進歩について理解を深める狙い～」であり、1,300名以上の方々にご参加いただきました。

第36回学術セミナー

学術雑誌や教育・啓発絵本などを発行

シスメックスでは、「シスメックスジャーナル・インターナショナル」（日本語版、英語版、中国語版）を、世界100カ国以上の医療機関や大学図書館に配布し、多くの医療関係者の方々に臨床医学および検査に関する最新の情報を発信しています。

また、病気や検査に関する教育・啓発のための絵本を作成し、病院・診療所などの医療機関に配布して、待合室などに置いていただいています。病気の特徴や検査・治療の方法について、わかりやすく紹介したもので、医学の知識がない方々や子どもにも興味を持って読んでもらえるよう、物語形式としています。

従業員との関わり

ー 行動基準 ー

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

人権・多様性の尊重

グローバルコンプライアンスコード（抜粋）

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

8-1 差別および嫌がらせ等の禁止
性別、年令、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、門地、疾病、障害などに関する差別的言動、ならびにセクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの人格を無視する行為を行ってはならない。

8-2 プライバシーの尊重
個人の多様な価値観を認めあうとともに、一人ひとりのプライバシーを尊重し、知り得た個人情報をみだりに話したり、不必要に知ろうとしてはならない。

8-3 強制労働・児童労働の排除
強制や意思に反しての不当な労働を強制してはならない。また、各国・地域の法令等に定める雇用最低年齢に満たない児童を就業させてはならない。

8-4 職場の安全・衛生の確保
誰もが安心して働けるよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

多様な人材を受容する「Diversity & Inclusion」

シスメックス（株）では、単に多様な人材が在籍する「Diversity」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し、受容する「Diversity & Inclusion」を目指して、国籍、人種、性別、障害の有無に関係なく人材を登用し、適材適所の配置を実施しています。

世界人権宣言、ILO中核的労働基準などの人権に関する国際基準を支持

シスメックスは、コンプライアンスコードの「8.人権の尊重と安全・衛生の向上」において、基本的な人権を尊重する上で遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインを定めています。このコードでは、あらゆる差別的取り扱いを行わないこと、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどの人格を無視した行為をしないこと、児童労働・強制労働などをさせないこと、安全で快適な職場環境を確保することを明示しています。また、これらを実践するため、随時研修などを実施しています。2013年度は、管理専門職を対象として、「ハラスメント」「労務管理」「労働者派遣法」のそれぞれをテーマとする研修を実施しました。

さらに、2014年5月にはグローバル企業として世界的な人権課題を踏まえて同コードを改定し、世界人権宣言、ILO中核的労働基準などの人権に関する国際基準を支持することを明記しました。

人権に関する相談・通報制度

国内グループ会社向けに内部通報制度「カンパニュライン」を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントに関する相談をはじめとする人権相談を受け付けています。また、海外グループ会社でも内部通報制度を整備しています。

障がい者雇用を推進

シスメックス(株)は、障がい者の方の雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業いただいています。2013年度の障がい者雇用率は、1.94%となりました。なお、2013年4月からは法定雇用率が2.0%となったため、その達成を目指して取り組みを強化していきます。

このように採用に注力する一方で、オストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者向けのトイレ)などのバリアフリー設備を導入するほか、月に一回安全衛生委員が職場を巡視し、車椅子が通行しやすいように整理されているかを確認するなど、障がい者の方が働きやすい職場環境の整備にも継続的に取り組んでいます。

高齢者雇用――定年退職者再雇用制度

シスメックス(株)では定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2013年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて16名を再雇用しました。

評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックス(株)は自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方に基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスの評価(コンピテンシー評価)も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

人材マネジメントシステムの考え方

1. **長期的な雇用を実現するために**
   - 多様な人材が安心して能力を発揮できる複線型の資格等級フレームを整備し、自己実現と成長の機会を提供
2. **多様な人材の能力開発・育成を推進するために**
   - コンピテンシーを基軸とする資格等級基準を設定し、昇格基準の明確化による人材育成と昇格運用の適正化を促進
   - 成果のみではなく、成果発揮に至るプロセス（発揮能力）を評価し、人材育成と企業風土の変革を促進
3. **企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いるために**
   - 評価と報酬の関係をシンプルにし、誰にでも分かりやすい制度
   - 仕事の貢献度・役割・発揮能力(コンピテンシー)および成果に連動したメリハリのある報酬体系

社員の将来のキャリア設計をサポート

シスメックス（株）では、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持ってもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。2013年度は、約97%の従業員が申告しました。

海外統括現地法人の人事制度

米州、EMEA※、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人においては、各地域の法律、文化に対応した人事制度を整備しています。

評価については、基本的に目標管理制度による評価を実施しています。また、米州とアジア・パシフィックでは、一部、コンピテンシー評価も実施しています。人材育成については、タレントマネジメント教育、階層別教育のほか、日本のシスメックス（株）との従業員交換プログラムも実施し、グローバルな人材交流・人材育成を推進しています。

※ EMEA：欧州、中東、アフリカ地域。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスは2011年度から、グループで最も貢献した個人および組織・グループを称える表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、1年に1度、グループ企業理念「Sysmex　Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出して、その功績をたたえ、全社で共有しています。

また、シスメックス(株)では、特許取得に貢献した社員を表彰する「特許表彰制度」も導入しています。2013年度には、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目指して制度を改定し、表彰の種類を、優秀と認められた特許の発明者などに与えられる「特許大賞・優秀特許賞」、特許発明を多数創出した者に与えられる「パテントマイスター」、初めて発明をした者に与えられる「出願記念賞」の3種としました。さらに、品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」も運営しています。

就職機会の均等化を目指して

シスメックス（株）では、性別・国籍・人種・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。

具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施し、2013年度は新卒者65名、ポテンシャル人材3名を採用しました。また、世界中のどこからでも応募できるよう、海外現地での説明会や面接に加え、インターネットを通じたWeb説明会やWeb面接も実施しています。2013年10月に3名、2014年4月に6名の外国人を迎え入れました。

契約社員・派遣社員の正社員登用

シスメックス(株)は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期限が限られている有期雇用者に対して、公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っています。また、派遣社員に対しては、個別契約を更新する際、一定の条件を満たしている対象者に直接雇用への切り替えを検討してもらうよう派遣会社へ案内しています。

これらの取り組みを継続的に実施してきた結果、2013年度には、契約社員・派遣社員あわせて13名を正社員として登用しました。

正社員への登用実績

	2011年度	2012年度	2013年度
契約社員	13名	10名	12名
派遣社員	10名	7名	1名
計	23名	17名	13名

仕事と家庭の両立支援

仕事と育児の両立支援

シスメックス(株)は、親子ができるだけ長く一緒に過ごせるよう、休暇・勤務時間短縮制度をはじめとして、育児のための多様な制度を制定しています。職種別のフレックスタイム制度を利用できるほか、子どもの看護のために会社を休む際、積立有給休暇を利用できる制度も導入しています。また、研究開発拠点「テクノパーク」内に、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。さらに、育児を理由にキャリアを中断した社員に再び働く機会を与える再雇用制度も設けています。これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、2011年度に厚生労働省から次世代認定マーク(愛称「くるみん」)を取得しています。

さらに2014年4月からは、男性社員の育児休業の取得を奨励するため、配偶者出産時の特別休暇を改定。従来は出産後1か月以内に5日取得でしたが、より使いやすくするために出産の前後1か月以内に2日、1歳になるまでに3日取得できる形に変更します。

これらの支援制度は、イントラネット上の専用サイトでわかりやすく解説しています。また、特に利用を推奨している制度については、メールで個別に案内を出しています。

社内託児所「シスメックスキッズパーク」

次世代認定マーク「くるみん」

■ 仕事と家庭の両立支援制度の利用状況（2013年度）

制度	概要	人数
育児のための勤務時間短縮制度	子どもが小学校3年生を終えるまで利用可能※。	利用者51名
休業制度（育休・産休）	育児休業は法定の1歳を超えて2歳まで取得可能。	利用者61名
積立年休制度	家族の看護や介護のために、失効した年次有給休暇を最大10日まで積み立て、利用できる制度。	利用者23名
再雇用制度	育児や介護のために退職した社員を再雇用する制度。	登録者3名
社内託児所	0歳児から小学校就学前までの乳幼児を預けられる託児所。常時保育だけでなく、一時的な利用も可能。	利用児童33名

※ 2014年度から、対象を「小学校6年生を終えるまで」に延長。

育児休業・介護休業後の職場復帰を支援

シスメックス（株）では、育児・介護休業者がスムーズに職場に復帰できるよう支援する制度を2013年2月から導入しています。本制度では、社内メールやイントラネットに接続できるタブレット端末もしくはノートパソコンを貸与することで、休業者が復帰予定の3カ月前から自宅で社内情報を閲覧できるようにしています。利用開始時には上司と面談することを必須としているため、復帰後の働き方を事前に相談する機会を提供することにもつながっています。

休業中、職場と疎遠になることは、復帰後の円滑な職務の妨げにもなります。このしくみを利用すれば、休業者は家庭にいながら社内情報をリアルタイムに入手できるうえ、メールのやりとりを通じて職場とのコミュニケーションの強化が図れます。疎外感や孤独感にさいなまれることなく休業中を過ごし、活き活きと元の職場に復帰できるよう配慮した、IT活用型の支援制度です。

より一層働きやすい職場に向けて

シスメックス（株）では、育児以外にも、あらゆる観点から、従業員のワークライフバランスを実現する制度を整備しています。親や家族の病院受診や入院付添いのために、積立有給休暇を利用することができます。また、介護でキャリアを中断する従業員に対しては、再雇用制度を適用しています。このほか、従業員の多様なニーズに応じた福利厚生を選択できるように、カフェテリアプランを導入しています。

2013年度は、工数管理や計画的な休暇取得ができるよう機能を強化した勤怠管理システムを新規に導入。さらに、管理専門職から一般職までを対象にメリハリのある働き方を推奨する「ポジティブ・オフ」について考える研修を実施しました。また、夫婦が共にシスメックス（株）の社員である場合は、配偶者の海外勤務に休職して帯同し、帰国後に復職できる「海外赴任配偶者帯同休職制度」を新たに導入しました。

さらに、2014年4月からは、つわりや不妊治療に使える「めばえ休暇」や、「ドナー休暇」、「ボランティア休暇」を新設し、休暇についてもさまざまなシーンで利用できる形に組み直しています。また、従業員の親族が要介護状態となり、介護休業を取得した場合、月額10万円を最大1年間給付する「介護休業補償金」を新設します。

こうした配慮を行うとともに、職場の改善に関する従業員の声を収集し、制度や設備の改善に役立てています。例えば、テクノパークなど一部の事業所では、従業員が職場の問題点について意見交換する「運用改善連絡会」を定期的に実施しています。

労使協調

協力して働きやすい職場づくりを推進

シスメックス(株)の労働組合であるシスメックスユニオンには、正社員のうち、役職者や管理部門の一部を除く全員が加入しており、全従業員に占める組合員の割合は、2013年度、67.7%となっています。当社とシスメックスユニオンは協力してワークライフバランスを確保するための制度整備などに取り組んでいます。

2013年度は5月に団体交渉を実施し、「働きがいのある職場の実現」をテーマに意見交換をしました。このほかにも労使協議会を11回開催し、人事評価や労働時間管理、賃金適正化、労働環境の改善などについて議論しました。

従業員の声を経営に反映

シスメックスでは、2年に1回、国内グループ会社の社員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。全100項目以上の質問に対する回答を分析し、組織内にある暗黙のルールや価値観、また各種施策の効果のほどを把握することで、当社グループが抱える課題の抽出と解決に役立てています。

また、米州、EMEA※、中国、アジア・パシフィックなどの各地域でも従業員満足度調査を実施しています。このほか、グループ会社のシスメックス国際試薬では、従業員がチームを結成し、業務改善方法などを経営層に提案する小集団活動成果発表会を毎年開催しています。

※ EMEA:欧州、中東、アフリカ地域。

健康と安全への配慮

心身の健康の維持・向上

シスメックス(株)では、定期健康診断に加え、人間ドックや女性がん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めるとともに、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」も年1回実施しています。健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医、保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関(EAP)も設置しています。

さらに、健康維持のための福利厚生施設として、カスタマーサービスの統括拠点であるソリューションセンターの敷地内にグランドやテニスコート、トレーニング設備を備えた体育館なども設けています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベントやセミナーも随時開催しています。2013年度は、社員食堂において、ヘルシーメニュー提供や管理栄養士による健康セミナーや健康相談などを実施しました。

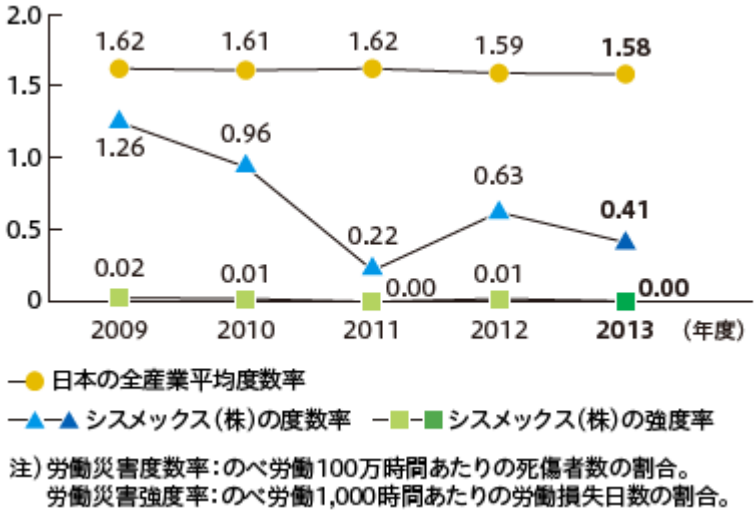
過重労働の防止

シスメックス(株)では、心身の健康を妨げる要因となる「過重労働」の防止にも注力しています。2013年4月には、時間外・休日労働時間に関する社内基準を厚生労働省の指針よりも厳しいものに変更しました。この基準を上回る従業員がいた場合、その上長へ連絡して本人から自己チェック票を提出させ、必要に応じて産業医との面談を実施しています。

安心して働ける職場づくり

シスメックス(株)は、従業員の安全衛生を確保するための指針として「安全衛生規程」を定めるとともに、事業所ごとに、各事業所長(役員)が議長を務める安全衛生委員会を設置し、安心して働ける職場づくりに努めています。事故時の応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などについて教育を実施しているほか、市民救命士の育成にも取り組んでいます。

■ 労働災害度数率／強度率（シスメックス（株））



注）労働災害度数率：のべ労働100万時間あたりの死傷者数の割合。
労働災害強度率：のべ労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合。

人材育成

体系的・効果的な人材育成を推進

シスメックス(株)では2013年度新たに人材開発体系を整備し、「配置・異動」「評価・フィードバック」「育成・教育」を連携させて体系的・効果的な人材の育成を進める体制を整えました。教育・研修プログラムの実践にあたっては、「選抜型研修」、「階層型研修」、「自律選択型研修」の3つを研修体系の軸として、計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。

2013年度の1人当たり平均研修時間は11.0時間、1人当たり平均研修費用は12万2,000円※となっています。

※ 人事部門が提供する研修対象とし、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。

■ 研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	● グローバルリーダーの育成 ● 将来的な経営人材の育成
階層型研修	● 階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決等の知識・スキルの習得 ● 部門間コミュニケーションの促進
自律選択型研修（Sysmex College）	● 業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキル ● ビジネス・マネジメント各種知識

製造現場で作業する従業員のスキル向上

医療機器を製造するシスメックスにおいては、製造に携わる従業員の技術向上も重要な課題です。そこで、シスメックス（株）では、実際の作業を体験できる訓練施設「ものづくりトレーニングセンター」を設置し、一年を通じて研修を実施しています。

ものづくりトレーニングセンターでの研修

海外での活動事例

労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格OHSAS18001※の認証を取得（ブラジル）

シスメックス・ブラジルは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるOHSAS18001の認証を取得しています。

※ OHSAS18001：1996年にイギリス規格協会（BSI）が発行した規格BS8800をもとに、約30の各国審査登録機関、標準団体などが集まって1999年に発行された規格。

オープンな社風づくり（ドイツ）

シスメックス・ヨーロッパでは、マーケティングミーティング、機能ミーティング、部門ミーティングなど、コミュニケーションの機会を多数設けています。各シーズンに行われる全従業員参加のイベントやクリスマスパーティなども、社内コミュニケーションを促す良い機会となっています。

さらに、「オープンドアポリシー」を採用し、従業員がマネージャーと直接対話することを推奨しています。

従業員参加のイベント

取引先との関わり

ー 行動基準 ー

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

バリューチェーンにおけるCSRの推進

CSRに配慮した調達方針の設定

シスメックス(株)では、調達先の選定や調達取引の基本的な考えを示す「調達方針」を制定し、これに沿ってバリューチェーンの構築を進めてきました。2013年度にはCSRに配慮した調達の推進を目指して本方針を改定し、ヘルスケア分野でグローバルに事業を展開する企業として「BCP(事業継続計画)体制の構築」、「各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進」などの項目を追加しました。今後はサプライチェーンの人権にも配慮していきます。

また、この改定にともない、新規の調達先への調査票に、労働安全衛生、人権問題への対処などのCSR項目を追加しています。2013年度は、新規の取引検討先4社に対してCSR評価を実施しました。

調達方針

シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」で定める「ヘルスケアの進化をデザインする」というMissionのもと、公平・公正を基本とした調達活動を行い、取引先の皆様に安心をお届けします。また相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業を目指します。我々は、法令や契約の遵守とともに高い倫理観のもと、ヘルスケア分野で事業展開する企業にふさわしい品質の部品・原材料の安定調達を行い、世界中のお客様に安心してご使用いただく製品をお届けできるよう、本方針に従い活動していきます。取引先の皆様には、下記7項目において、将来の価値の創造、改善につながる取り組みを期待しています。

お取引先様へのお願い

1. ヘルスケアにふさわしい品質
2. 継続的な供給体制の構築
3. ヘルスケアの発展に貢献できる技術力
4. 安定した経営基盤とBCP(事業継続計画)体制の構築
5. 各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進
6. 地球環境保全に向けた環境マネジメントの推進
7. 適正価格での供給と積極的な価格低減活動の実施

2014年3月改定

調達先との関係強化に向けて

当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、調達先との関係強化に努めています。2013年度は当社の創立45周年記念事業の一環として「創立45周年シスメックスサプライヤー会」を開催し、調達先の皆様へ日頃の感謝をお伝えするとともに、ものづくりのパートナーとしてBCP（事業継続計画）などについて共に考える機会を提供しました。

創立45周年シスメックスサプライヤー会

調達部品・原材料の品質向上に向けて

お客様に、高品質の製品を安定的に提供するためには、調達原材料・部品の品質を維持・向上する必要があります。そこで、2009年度から、品質に関する要求事項を明示した品質保証協定書を作成し、その内容への理解を深めていただくための手引き書も準備したうえで、調達先と契約を締結しています。

また、新規の調達先に対しては、もれなく品質監査を実施し、品質マネジメントシステムが適切に運用されているか確認しています。既存の調達先に関しては、納入された部品の品質監視の結果、是正および予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

取引におけるコンプライアンスの徹底

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

電子調達システム（STM）を構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。2013年度は、研究開発資材を発注する部門の新規配属者・新入社員25名を対象に、資材発注の注意点や下請代金支払遅延等防止法などの法令遵守について説明しました。

販売代理店にコンプライアンスに関する方針などを説明

シスメックスは、販売代理店と良きパートナーシップを維持するために、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。販売代理店との関係において、従業員が遵守すべきルールとして「優越的地位の濫用禁止」「過剰な接待・贈物の禁止」などを定め、これらを遵守しています。販売代理店に対しては、新製品発売時に開催する「製品説明会」などでシスメックスのコンプライアンスに関する方針や活動を説明し、コンプライアンスの重要性と当社の取り組み姿勢を認識いただいています。

なお、海外の販売代理店に対しては、定期的に現地を訪問して打ち合わせをするほか、必要に応じてテレビ会議や代理店会議なども実施し、継続的にコミュニケーションをとっています。

代理店会議（中国）

株主との関わり

― 行動基準 ―

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

情報開示

株主総会・株主懇談会の開催

株主の皆様との直接対話の機会を大切にし、できるだけ多くの方々に総会に参加していただけるよう努めています。

総会後は株主懇談会を開催し、株主の皆様との対話を深めています。2013年度は「安心をお届けするシスメックス」をテーマに、当社の事業活動やIR活動、人事施策、グローバルな社会貢献活動、そして当社に対する社外評価などについてパネルや映像でご説明した後、ご意見・ご質問にお答えしました。

一方、当日、総会に出席することが難しい株主の皆様は、書面やインターネットで議決権を行使することができます。このほか、総会の招集通知と決議通知の読みやすさにも配慮しています。いずれも海外の方のために英文版を作成しているほか、カラーの招集通知をお配りし、Webでも閲覧できるようにしています。

株主懇談会

さらなる情報開示の充実を目指して

シスメックスでは、証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守することはもとより、当社独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報を積極的に開示するよう努めています。

年2回の決算説明会（期末・第2四半期決算時）に加え、2011年3月期の第3四半期より、さらなる情報開示の充実を目指し、第1・第3四半期決算発表時に、カンファレンスコールを開催しています。

外部からの評価

「個人投資家向け情報提供における優良企業」に2年連続で選定

2013年度、シスメックスは、日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が主催する「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」の「個人投資家向け情報提供における優良企業」に2年連続で選定され、全業種の評価対象企業200社の中で第2位にランキングされました。

個人投資家向け会社説明会において社長などが説明を行い、内容の面でもビジネスモデルを理解しやすいようシンプルな構成としていること、さらにホームページ上で動画配信を行っていることなどが高く評価されました。

「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」授賞式

社会貢献活動

基本的な考え方

シスメックスは、今後の社会貢献活動の方向性を示した社会貢献方針を2012年5月に制定しました。

社会貢献方針

シスメックスは、豊かな健康社会、活き活きとした地域社会作りにつながる社会貢献活動を積極的に行うとともに、従業員の主体的な社会貢献活動を支援します。

- **豊かな健康社会への貢献**
  ヘルスケア企業としての特徴を活かした社会貢献活動を積極的に展開し、より豊かな健康社会づくりに貢献します。
- **活き活きとした地域社会への協力**
  「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会貢献活動への賛助ならびに自らもその活動に参画することにより、活き活きとした地域社会の実現に協力します。
- **従業員の社会貢献活動への支援**
  従業員がグループの一員であることに誇りをもち、市民として社会貢献活動を主体的に実践できるように支援します。

2012年5月制定

従業員の社会貢献活動を支援する制度

シスメックスでは、従業員の社会貢献活動を促進するために2014年4月に「社会貢献ポイント制度」を導入しました。この制度は、従業員が個人で社会貢献活動を行ったり、会社主催の社会貢献イベントに参加するとポイントを取得でき、貯まったポイントに応じて会社から救急医薬品キットや抗マラリア薬、ワクチンなどが途上国に寄付される仕組みです。どのような寄付をするかは従業員自身が選ぶことができます。

この制度の運用を通じて、従業員が社会の一員として社会貢献活動を主体的に実践できるよう支援していきます。

社会貢献活動：健康社会づくり

神戸医療産業都市構想への参画

「神戸医療産業都市構想」は、産官学が協力して神戸市への医療・産業の集積を図るプロジェクトです。

シスメックス(株)は、プロジェクトの中心的な拠点の一つである「臨床研究情報センター」内に「シスメックス浅野研究室」を2007年1月に開設しました。本研究室は2014年3月に「シスメックスIBRI」と名称を改め、様々な医療機関・企業等と共同研究を促進する場（オープンラボ）として、これまでで進めてきた免疫疾患診断技術を軸として、研究の幅をさらに広げていきます。

寄附講座の開設

2004年度から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学（シスメックス）」を開設しています。同講座では、これまで、膠原病・リウマチなどの自己免疫疾患に関する調査研究をはじめとした新規臨床検査技術の研究活動が進められてきました。今後は、近年課題とされている「個別化医療」の実現に向けて、新たな臨床検査法の開発と、有用性の検証が進められます。本研究は、正確な診断を実現するのみならず、最も効率的で副作用の少ない医療を患者さんに提供できる方法論の確立につながるもので、社会に多大な貢献をもたらすと期待しています。

このほか、電子計測技術の発展を支援するために設立した「中谷電子計測技術振興財団」は、2012年に公益財団法人に移行するとともに「公益財団法人中谷医工計測技術振興財団」と改称し、生体に関する計測技術・関連技術についての研究助成と研究者の表彰を実施しています。今年度は設立30周年を迎え、研究助成を拡大したほか、留学助成や中学・高校の科学教育振興助成にも事業を拡大しました。

設立以来、2013年度までの延べ助成件数は321件、累計助成金額は6億304万円となっています。

献血への継続的な協力

献血時に用いる検査機器を提供しているシスメックスでは、自らも積極的に献血活動に参加しています。例えば、テクノパーク、加古川工場、小野工場、西神工場などでは、毎年回数を定めて、社員が地元兵庫県の赤十字センターの献血活動に協力しています。

こうした活動が評価され、2013年8月に開催された「平成25年度兵庫県献血功労感謝のつどい」では、加古川工場が金色有功賞を、小野工場が銀色有功賞を、日本赤十字社から贈られました。これらの章は日本赤十字社の活動に大きな貢献をした人物や組織に贈られるもので、今回の受賞では、それぞれ20年、15年以上にわたって献血活動を継続してきたことが評価されました。

加古川工場が受賞した金色有功章

市民救命士講習会の開催

シスメックス（株）では、毎年、テクノパーク／ソリューションセンターで「市民救命士講習会」を開催しています。市民救命士講習とは、神戸市の認定を受けた民間救急講習団体（FAST）が実施する講習で、傷病者が発生したときにその場で適切な対処を行える市民救命士の育成を目的としています。

2013年度は11月に付近の地域福祉センターから講師を招いてソリューションセンターで開催しました。当日は18名の参加者が胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸、AEDの取り扱いといった心肺蘇生の一連の流れを実技ベースで学びました。

市民救命士講習会での訓練

海外協力事業への協力

シスメックスでは、海外協力事業として、外務省やJICAなどによる新興国・途上国の医療水準向上に関わる事業への機材提供（円借款および無償援助案件等）に参加しています。

また、毎年、JICAの研修生を当社施設に受け入れ、研修を実施しています。2013年度には当社ソリューションセンター、加古川工場などで計3回の研修を実施し、アフリカや大洋州、中央アメリカなどからの研修生が受講しました。

JICA研修生

社会貢献活動：地域社会への協力

本社所在地兵庫県への貢献

地域の方々との交流イベントを開催

シスメックス（株）は、地域住民の方々を当社所有の建物にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。2013年5月には「テクノパークフェスタ」を開催し、健康に関する講演会やヘモグロビン推定値の測定体験などを行い、約700名の方々にご来場いただきました。

2013年度はこれに加え、11月30日からの2日間、「みなと異人館」を一般公開しました。みなと異人館は1906年に建造された神戸市の歴史的建造物で、老朽化のため2008年から閉鎖されていました。これを2012年9月に当社が借り受け、修繕した上でゲストハウスとして活用しています。一般公開では、館内を公開するだけでなく、神戸の歴史を紹介する写真展や、一般の方に気軽に楽しんでいただけるイベントを併催し、約250名の方々にご来場いただきました。今後も定期的に地域の皆様へ公開していく予定です。

テクノパークフェスタ

みなと異人館での写真展

地域振興の支援

シスメックス（株）は、地元兵庫県の地域振興を目的とするイベントなどに対して寄付や協賛を通じて支援しています。

●「神戸ルミナリエ」に協賛

1995年阪神・淡路大震災で亡くなられた方々の鎮魂の意を込めるとともに、神戸・兵庫の復興・再生への夢と希望を託して始まった「神戸ルミナリエ」に毎年協賛しています。

●神戸市立王子動物園の「動物サポーター制度」に協力

「動物サポーター制度」は、企業や個人が動物のサポーターとなって動物園の運営を支援するもので、当社はパンダのサポーター企業となっています。

●「KOBE JAZZ FESTIVAL」に協賛

神戸のジャズ文化の発信とジャズミュージシャンの後継者育成を目的として、プロのジャズアーティストとともに地元の中学・高校・大学のジャズバンドを迎えて開催されるコンサートイベント「KOBE JAZZ FESTIVAL」に協賛しています。

環境保全への貢献

シスメックス（株）では、2008年度に環境保全活動に関心がある従業員が「エコチーム」を結成し、環境保全活動に取り組んでいます。

2013年度は、2010年度から継続して参加している六甲山（兵庫県）の植樹・育樹活動「鶴甲の森づくり」に参加しました。また、各事業所で付近の清掃を行う「クリーン作戦」を実施し、地域環境の向上を図りました。また、グループ会社でも、従業員ボランティアによる拠点周辺の清掃活動などを実施しています。

鶴甲の森づくり

地元青少年の育成支援

シスメックス（株）では、地元の中学生や高校生・大学生・検査技師学校の学生などの企業見学を積極的に受け入れています。また、兵庫県下の中学生を対象に実施されている職場体験プログラム「トライやるウィーク」や、兵庫県下の理数系の高校生が研究成果を発表し、企業、大学、研究機関と交流するイベント「サイエンスフェアin 兵庫」にも毎年参加しています。

2014年2月に開催された「第6回サイエンスフェアin兵庫」では、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品ASTRIMによる健康チェック体験や事業紹介のポスター掲示などを実施しました。ASTRIM測定体験は200人近くの方々に体験していただき、好評を博しました。

第6回サイエンスフェアin兵庫

その他地域への貢献

インターンシップ生の受け入れ

シスメックスでは、日本はもちろんのこと、事業を展開する海外地域からも就業体験を希望する学生を受け入れています。

これまで韓国や中国、ロシアなどからインターンシップ生を受け入れており、2013年5月は、インド・タイから計6名の学生を日本に招き、工場見学や装置のメンテナンス、物流業務などを体験してもらいました。これらの取り組みは、海外の学生に興味をもってもらうきっかけとなるものです。地域社会と共に発展していくことを目指して、今後も取り組みを続けていきます。

インドからのインターンシップ生

タイからのインターンシップ生

環境保全活動

行動基準

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月改定

環境保全活動：環境マネジメント

環境マネジメント体制

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月改定

環境活動の推進

シスメックスは、「シスメックスグループ環境行動計画（シスメックス・エコビジョン2020）」(2010年度策定、2012年度改訂)の目標達成に向けてグループで取り組んでいます。

2013年度には、グループ各社の責任と役割を明確化してグループとしての環境マネジメントを強化するため、グローバル環境マネジメント規程を制定しました。そして、シスメックス（株）の専務執行役員が環境マネジメントオフィサーとしてグループの環境マネジメントを統括・管理し、その指示のもと、各地域または事業分野ごとに環境活動を推進できるよう、グローバルな環境マネジメント体制の整備を進めています。

ISO14001の認証を取得

シスメックスでは、グループの主要な関係会社で環境マネジメントの国際規格「ISO14001」の取得を進めており、2014年4月末現在、累計19拠点で取得を完了しています。

また、2013年度には、シスメックス（株）とシスメックス国際試薬の認証にシスメックスRAとシスメックスメディカの認証をあわせて、国内ISO14001の認証を統合しました。国内グループ各社の環境活動を一元化して、活動の進捗状況や問題点をグループとして把握することでマネジメント活動の強化を目指しています。

ISO14001認証取得状況

会社名	事業所	取得時期
シスメックス（株）	加古川工場	2000年4月
	テクノパーク	2002年2月
	本社	2002年2月
	ソリューションセンター	2005年11月
シスメックス国際試薬	小野工場	2001年3月
	西神工場	2007年6月
シスメックスメディカ	―	2001年3月
シスメックスRA	―	2008年6月
シスメックス・ヨーロッパ	ノイミュンスター工場	1999年11月
	本社	2011年10月
シスメックス・ドイツ	―	2011年10月
シスメックス・ブラジル	―	2006年5月
シスメックス・アメリカ	―	2009年12月
シスメックス・リージェンツ・アメリカ	―	2009年12月
シスメックス・ニュージーランド	―	2011年5月
シスメックス・インディア	―	2012年3月
シスメックス・アジア・パシフィック	―	2012年4月
シスメックス・ミドルイースト	―	2013年3月
シスメックス・無錫	―	2013年6月

環境監査の実施

2013年度、認証統合をした国内グループ4社では、法規制の「順守評価」に加え、「内部環境監査」、さらに外部審査機関による「外部環境監査」を実施しました。

内部環境監査では2件、外部環境監査では3件の不適合が見つかりましたが、それぞれ是正対応を完了しています。

毒物・劇物の管理

2014年2月、シスメックス国際試薬（株） 西神工場においてアジ化ナトリウム46.2gが紛失していることが判明したため、直ちに社内調査を実施しましたが発見に至りませんでした。

この物質は臨床検査用試薬の製造に用いるもので、毒物及び劇物取締法の対象となることから、警察に紛失届を提出しました。今後は管理体制をさらに強化し、再発防止に努めます。

環境保全活動：環境計画と実績

計画・目標

システックスグループ環境行動計画（システックス・エコビジョン2020）／中期環境目標

	システックス・エコビジョン2020の長期環境目標（改訂版）	中期環境目標（2013～2015年度）	2013年度の活動・実績
製品・サービス等の環境配慮	環境に配慮した製品・サービスの提供	環境に配慮した製品・サービスの提供	● RoHS指令適合に向けた活動の推進 ● 消費電力削減に向けた製品開発の推進 ● 試薬に使用する主要原料について、動物由来原料から人工的に作成したタンパク質への切り替えを推進 ● 製品の容器包装・梱包材の使用量削減の推進 ● サービスの効率化によるCO_2削減に 向けた、アジア地域のリモートサービス の拡大推進
	国内・域間物流のCO_2排出量50%削減（トンキロ原単位）※1 基準年度 2010年	国内・域間物流のCO_2排出量30%削減（トンキロ原単位）※1 基準年度 2010年	● 海外への輸出について、航空便から海上輸送への切り替え推進 **2013年度実績：0.15** **基準年度(2010年度)：0.14** **対基準年度：3%増**
事業所の環境配慮	事業所における温室効果ガス排出量50%削減（連結売上高原単位）※2 基準年度 2008年	事業所における温室効果ガス排出量25%削減（連結売上高原単位）※2 基準年度 2008年	● 設備導入による温暖化対策（空調の室温管理徹底、省エネ蛍光灯の導入、階段照明への人感センサー設置など）（各事業所） ● 再生可能エネルギーを扱う電力会社から購入（システックス・ヨーロッパ） ● 太陽光発電の利用によるCO_2排出量削減（システックス・ヨーロッパ ノイミュンスター工場） **2013年度実績：8.19** **基準年度(2008年度)：10.07** **対基準年度：20%減**
	事業所のリサイクル率93%以上の達成※3	事業所のリサイクル率90%以上の達成※3	● 廃棄物処理業者の見直しを実施（テクノパーク） ● 外注包装材料の再利用（システックス・無錫） **2013年度実績：88.9%**
	試薬工場の水使用量10%削減（生産量原単位）※4 基準年度 2008年	試薬工場の水使用量3%削減（生産量原単位）※4 基準年度 2008年	● 新純水装置の導入（済南システックス） ● 浄化処理後の工場排水の再利用（システックス・インディア） **2013年度実績：22.0** **基準年度(2008年度)：21.5** **対基準年度：3%増**

※1 シスメックス(株)

※2 工場および主要事業所
国内・海外グループ12工場(日本5、ドイツ、アメリカ、ブラジル、中国2、インド、シンガポール)
国内・海外主要事業所8拠点(日本4、ドイツ、アメリカ、中国、シンガポール)

※3 工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所
国内・海外グループ12工場(日本5、ドイツ、アメリカ、ブラジル、中国2、インド、シンガポール)
国内・海外主要事業所6拠点(日本2、ドイツ、アメリカ、中国、シンガポール)

※4 試薬工場(9拠点)

製品の環境配慮

法規制への対応

2011年7月に改正RoHS指令※が発効し、これによって当社の製品では2016年7月から検体検査機器、動物用検体検査機器に同指令が適用されることとなりました。

シスメックスでは、この改正RoHS指令に適合できるよう、欧州へ出荷している製品の部品調査を進めています。2014年度には、その調査を完了させた上で、対応の必要な部品について設計変更などを行い、2015年度中の適合完了を目指して取り組みを進めています。

※ RoHS指令:EU(欧州連合)で販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属(鉛、カドミウム、水銀、六価クロム)と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤(PBB、PBDE)の使用全廃を要求したもの。

省エネ、小型化等の製品の開発

シスメックスでは、お客様先での省エネルギーに貢献するため、検体検査機器の省エネ・小型化に向けた技術開発に取り組んでいます。

また、製品などの輸送時に発生する環境負荷を低減するため、梱包材の使用量削減や、梱包方法の効率化などにも取り組んでいます。

環境にも配慮した診断薬原料生産手法を確立

シスメックスでは、診断薬の原料タンパク質に関して、カイコによる生産手法を確立しました。またこの技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業様から注文をいただいています。

従来これらのタンパク質は、哺乳類などの細胞を、環境制御タンク(無菌、温度、酸素濃度等)などの機械設備で生産していたため、多くのエネルギーを消費していました。一方、カイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、省エネルギーや廃棄物削減が期待できます。

タンパク質生産に用いられるカイコ

サービスなどの環境配慮

環境に配慮したサービスモデル

シスメックスでは、サービスを効率化することで、環境負荷の低減を図っています。

例えば、カスタマーサポートセンターの充実を図るとともに、SNCSによるお客様との双方向ネットワークをグローバルに構築し、検査装置のダウンタイムの最小化を図っています。

これによってシスメックスの担当者がお客様先を訪問する頻度を減らすことができ、社用車のガソリン使用量やCO_2排出量の抑制につなげています。

物流におけるCO_2排出量削減

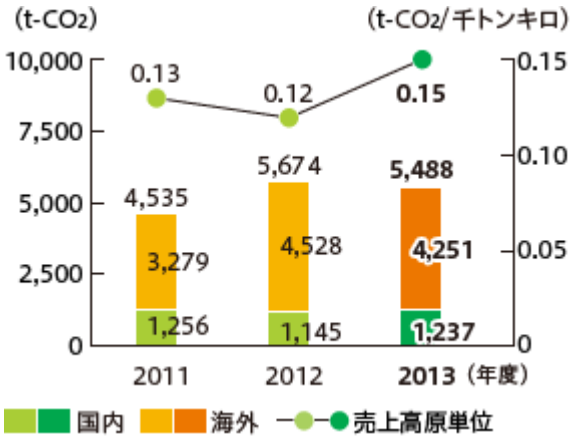
物流工程でのCO_2排出量についても、取り組みを進めています。海外への輸送については、航空便から海上輸送への切り替えを進めていますが、緊急品の航空輸送が多くなっていることから、海上輸送コンテナの積載効率を向上させて計画的な船便出荷を実施することで緊急品の出荷を低減させる取り組みも開始しました。

2013年度のCO_2排出量は、トンキロ※原単位換算では前年度比で約3%増加しましたが、海上輸送への切り替えの推進などにより、実数比較では約3%減少しています。

※ トンキロ：貨物輸送量を表す単位のことで、貨物のトン数とその貨物を輸送した距離（km単位）を掛け合わせたもの。例えば、1トンの貨物を1km運んだ場合は「1トンキロ」と表す。

	2011年度	2012年度	2013年度
国内輸送	1,256t-CO_2	1,145t-CO_2	1,237t-CO_2
海外への輸送	3,279t-CO_2	4,528t-CO_2	4,251t-CO_2

物流におけるCO_2排出量



注）集計範囲は、国内工場から国内顧客および海外各地域の港、空港までのCO_2

事業所の環境配慮

事業所での温室効果ガス排出量削減

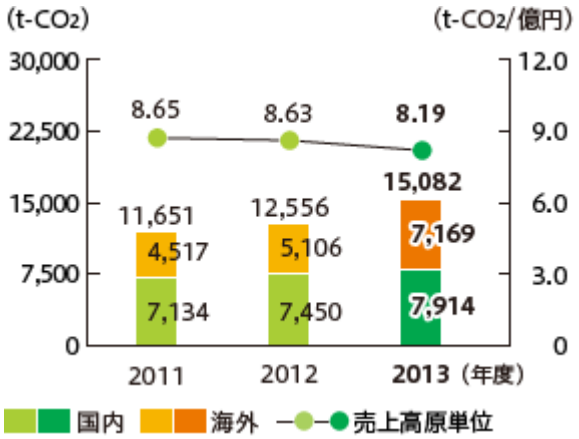
事業所における温室効果ガス排出量を削減するために、各事業所でさまざまな活動を進めています。

工場を含む各事業所では、夏期・冬期の室温管理の徹底、階段照明などへの人感センサーの設置、省エネ蛍光灯・LED照明の導入など、それぞれの事業所の特性にあった省エネ対策を実施しています。一部事業所ではデマンド監視機能も設置し、電力使用量を総量で管理しています。

これらの取り組みの効果もあり、2013年度の温室効果ガス排出量（連結売上高原単位）は、前年度比で約5%削減することができました。

LED照明（小野工場）

■ 事業所での温室効果ガス排出量



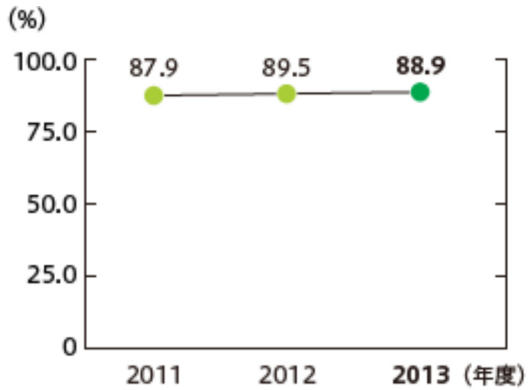
注）集計範囲：工場および主要事業所
国内・海外グループ12工場（日本5、ドイツ、アメリカ、ブラジル、中国2、インド、シンガポール）
国内・海外主要事業所8拠点（日本4、ドイツ、アメリカ、中国、シンガポール）

事業所での廃棄物の削減

廃棄物処理業者の見直しを実施するなど、廃棄物の削減やリサイクル率向上にも継続的に取り組んでいます。例えば、シスメックス・無錫では外注包装材料の包装用PE袋を生産・開発の場所で使用したり、生活用ごみ袋として再利用するなど廃棄物の削減にも取り組んでいます。また、国内では、社員食堂など生ごみが多く出る事業所で生ごみ処理機の活用を進め、生ごみを肥料に変えるなど、各拠点でさまざまな取り組みを継続的に実施しています。2013年度は、テクノパークで完全消滅型の生ごみ処理機を設置し、可燃ごみを約20%削減しました。

これらの取り組みにより、グループのリサイクル率は、毎年安定した水準を維持しています。

■ 事業所のリサイクル率

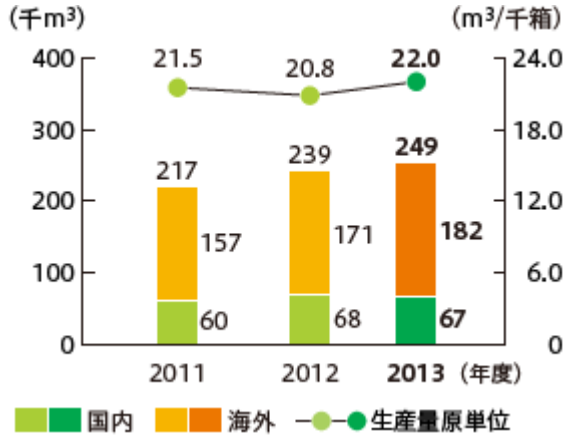


注）集計範囲：工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所
国内・海外グループ12工場（日本5、ドイツ、アメリカ、ブラジル、中国2、インド、シンガポール）
国内・海外主要事業所6拠点（日本2、ドイツ、アメリカ、中国、シンガポール）

事業所での水使用量削減と適切な排水処理

水の使用効率を高め、水使用量の削減にも取り組んでいます。シスメックス・インディアで浄化処理後の工場排水を工場内の緑地へ引いて、水やりに使用しているほか、各拠点で取り組みを進めていますが、生産量の増加や工場の増改築などの影響もあり2013年度は、前年度比で約3%増加しました。

■ 試薬工場での水使用量



注) 集計範囲:試薬工場(9拠点)

その他

国内社用車のCO_2排出量削減

約400台ある国内の社用車からのCO_2排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図るなどの取り組みを行っています。このほか、低燃費車やハイブリッドカーの導入などに取り組みましたが、集計対象範囲を拡大したことなどにより、2013年度の国内社用車からのCO_2排出量は、前年度比で約5%増加しました。

感染性物質の厳重な管理と適切な処理を徹底

シスメックス国際試薬では製品の原材料として、テクノパークでは研究開発の実験材料として、生物由来の物質を取り扱っています。これらは感染の危険性があるため、万が一に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

電子化などによる紙使用量の削減

シスメックス(株)では、タブレット端末を導入し、ペーパーレス会議を推進しています。これによって紙の使用量・廃棄量削減、印刷・配布などの事前準備の工数削減に取り組んでいます。また、事前に資料のデータを出席者に配付できるようになったことで、会議の効率化にもつながっています。

また、サプライヤー向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

グリーン調達の推進

シスメックスでは、「グリーン調達基準」を制定し、調達先の環境意識の啓発を図っています。また、製品への使用を制限・削減する化学物質をWebサイトで公開し、部品・材料の調達先に協力を要請しています。

環境保全活動：グリーン調達

グリーン調達を推進

シスメックスでは、製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため、グリーン調達を推進しています。また、責任ある企業市民として、環境に配慮した購買取引を行うことを調達方針のひとつに位置付けています。

グリーン調達基準

調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

グリーン調達基準

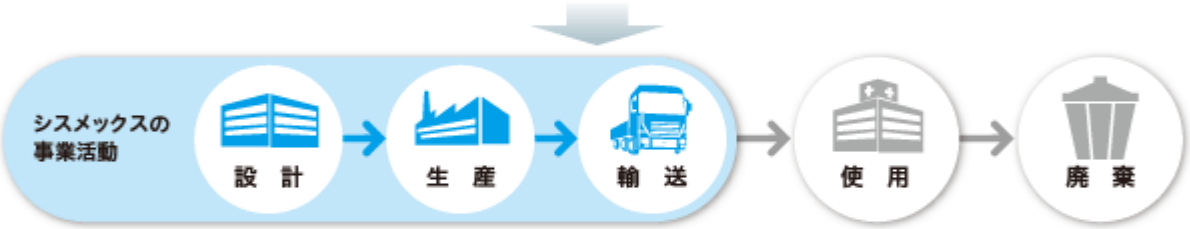
1. **目　的**
   シスメックスグループが、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に積極的なサプライヤーと共に持続可能な社会の発展を目指すことを目的に制定する。
2. **グリーン調達の方針**
   調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤーも含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施する。グリーン調達の具体的な取組みとして、以下の2項目を推進する。
   1）環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進する。
   2）環境保全に積極的なサプライヤーとの取引を拡大する。
3. **適用範囲**
   シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。
4. **製品使用化学物質の管理**
   シスメックスグループが開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとする。
   1）製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
   2）製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
   3）使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染発生等の環境負荷が低いこと
   4）資材に関する環境情報を公開していること
   5）梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

環境保全活動：環境データ

事業活動にともなう環境負荷

INPUT

		2012年度	2013年度
1	電気使用量（千kwh）	28,154	34,519
1	都市ガス（千m^3）	1,044	1,185
1	LPG（m^3）	5,337	5,671
1	LNG（m^3）	0	0
1	重油（kL）	0	0
1	灯油（kL）	62	68
1	軽油（kL）	19	19
4	国内社用車ガソリン（kL）	748	795
4	国内社用車軽油（kL）	3.3	11.7
3	水使用量（千m^3）	332	346
5	OA用紙（t）	53	50
4	PRTR（t）	7.2	7.9



OUTPUT

		2012年度	2013年度
1	事業所温室効果ガス排出量（t-CO_2）	15,988	20,194
4	国内社用車ガソリン（t-CO_2）	1,746	1,830
2	廃棄物等総排出量（t）	1,164	1,274
2	リサイクル率（%）	89.2	89.1
3	水排出量（千m^3）	144	144
4	PRTR（t）	0.7	4.8

1 シスメックス（株）の全事業所、国内関係会社、工場および統括現地法人
2 シスメックス（株）の全事業所（リサイクル率は支店・営業所を除く）、および工場
3 シスメックス（株）の製品・化学物質を取扱う事業所および工場
4 シスメックス（株）の全事業所および国内工場
5 国内グループのISO14001認証取得事業所

注）国内ISO14001認証の統合にともない、5 の集計範囲を変更したため、OA用紙使用量を2013年度発行の「シスメックスあんしんレポート2013」に記載している数値から更新しています。また、海外統括現地法人で1社集計に誤りがあり、都市ガス使用量を修正しています。

社外からのCSR評価

SRI（社会的責任投資）など

持続可能な社会の実現に向け、経済的観点だけでなく、環境や社会的公正性といった観点から一定以上のパフォーマンスを示している企業を評価・選別する社会的責任投資（SRI：Socially Responsible Investment）が注目されています。

シスメックス（株）は、代表的なSRIインデックス（指標）の一つである「FTSE4Good Index※1」の構成銘柄に2008年度から継続して採用されています。また、2012年から継続して「Dow Jones Sustainability Indexes※2」のアジア・太平洋版である「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」の構成銘柄に組み入れられています。これに加えて、ベルギーのSRI評価団体フォーラム・エティベルによる「Ethibel Excellence※3」にも選定されています。

※1 FTSE4Good Index：英国フィナンシャル・タイムズ紙とロンドン証券取引所の共同出資会社、英国FTSE社が開発・管理しているSRIインデックス。

※2 Dow Jones Sustainability Indexes：米国のS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス（S&P Dow Jones Indices）社 と、スイスのSRIに関する調査専門会社であるロベコSAM(Robeco SAM）社が共同開発したSRIインデックス。

※3 Ethibel Excellence：人権尊重や環境配慮といったCSR上の課題において、一定以上のパフォーマンスを示している企業を選出した株式銘柄群。

MEMBER OF
Dow Jones
Sustainability Indices
In Collaboration with RobecoSAM

FTSE4Good

member of the INVESTMENT REGISTER
ETHIBEL EXCELLENCE

外部からの評価、表彰

2014年

4月 ・「尿中有形成分分析方法の開発」が平成26年度文部科学大臣表彰の科学技術賞（開発部門）を受賞

3月 ・「Companies That Care Honor Roll 2014※」に選出（シスメックス・アメリカ）
※ Companies That Care Honor Roll 2014：従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO「Center for Companies That Care」の調査による

2013年

12月 ・ 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬が、ドイツのデザイン賞「German Design Award」(The German Design Council主催)を受賞

11月 ・ 近畿地方発明表彰において兵庫県発明協会会長賞(1件)と発明奨励賞(3件)を受賞

11月 ・ シカゴトリビューン紙が地域の優れた職場を表彰する「Top Workplaces」の1社に選定(シスメックス・アメリカ)

10月 ・ 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定

10月 ・ 健康モニタリング装置「ASTRIM FIT」が日本デザイン振興会主催のグッドデザイン賞を受賞

7月 ・ オンラインネットワークサポートサービスSNCS(Sysmex Network Communication Systems)が日経コンピュータ(日経BP社)主催の「IT Japan Award 2013」のグランプリ賞を受賞

6月 ・ 「検体分析装置」と「白血球分類計数方法及び白血球分類計数キット」が兵庫県発明賞を受賞

4月 ・ 「多項目自動血球分析装置における粒子分類計数方法の開発」が平成25年度文部科学大臣表彰の科学技術賞(開発部門)を受賞

3月 ・ 「Companies That Care Honor Roll 2013」に選出(シスメックス・アメリカ)

1月 ・ 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬がドイツのデザイン賞「iF product design award 2013」(International Forum Design GmbH主催)を受賞

2012年

11月 ・ 近畿地方発明表彰において日本弁理士会会長奨励賞(1件)、発明奨励賞(3件)を受賞

10月 ・ 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定

10月 ・ 高い従業員満足度が評価され、「2012 Best Places to Work in Healthcare※」に選出(シスメックス・アメリカ)
※ Best Places to Work in Healthcare:医療業界から従業員にとって働きがいのある会社を選出・表彰する企業ランキング。業界誌「Modern Healthcare」の調査による

8月 ・ シスメックスアニュアルレポート2011がアニュアルレポートコンテスト「第26回International ARC Awards」(米国MerComm社主催)で「Bronze 賞」(ヘルスケア・テクノロジー部門)を受賞

8月 ・ 売上の急成長が評価され、「Healthcare's Hottest Award※」に選出(シスメックス・アメリカ)
※ Healthcare's Hottest Award:医療業界において、2000万ドル以上の年間売上と、継続した成長がある企業が選出される。業界誌「Modern Healthcare」の調査による

5月 ・ 神戸商工会議所での取り組みや地域産業の活性化に貢献されたとして兵庫県功労者表彰(産業振興功労)を受賞

・ 「自動分析装置の分注ピペット洗浄方法」と「自動標本作製装置」が兵庫県発明賞を受賞

3月 ・ 「Companies That Care Honor Roll 2012」に選出(シスメックス・アメリカ)

3月 ・ 高い従業員満足度が評価され、「Germany's Best Employers 2012※」の一社に選定(シスメックス・ヨーロッパ)
※ ドイツの調査機関が実施する400社以上を対象とした従業員満足度調査に基づく

2月 ・ サービス品質の高さが評価され、「Achievement in Customer Excellence Award※」を受賞(シスメックス・アメリカ)
※ 米国MarketTools社による、顧客、従業員、およびパートナー満足について優れた実績を認定するプログラム

1月 ・ 2012年Global 100(世界で最も持続可能な100社)に選出

2011年

12月 ・ 「2011 Best Places to Work in Healthcare」に選出(シスメックス・アメリカ)

11月 ・ シスメックスの新たなデザインコンセプト「サイレントデザイン®」を適用した臨床検査システムが高く評価され、「2011年度グッドデザイン金賞」を受賞

8月 ・ 「抗ヒトミトコンドリアCK 活性阻害抗体を用いたCK-MB 活性測定試薬『エルシステム・CK-MB』の概要」という内容で、日本臨床化学会から学会賞(技術賞)を受賞

5月 ・ 白血球分類計数方法および試薬に関する技術が、平成23年度全国発明表彰「発明賞」を受賞

3月 ・ 機器生産における取り組みが、社団法人兵庫工業会が主催する「第3回ひょうごものづくり技術大賞」の「兵庫県知事賞」を受賞

3月 ・ 「Companies That Care Honor Roll 2011」に選出(シスメックス・アメリカ)

2月 ・ シスメックステクノパークR&Dタワーが CASBEE建築賞(第1回神戸市都市デザイン賞CASBEE建築部門)を受賞

1月 ・ 日経アニュアルリポートアウォード2010(日本経済新聞社主催)にて、当社リポートが「構成・デザインともきれいに仕上がったバランスのとれたリポート」として評価していただき、「入賞」を受賞

2010年

11月 ・近畿地方発明表彰において特許庁長官奨励賞（1件）、発明奨励賞（3件）を受賞

・OSNA法がスペインで「Best Ideas in healthcare 2010※」（Diario Médico主催）を受賞

※ 医療専門の日刊紙Diario Médicoが2002年から実施している賞で、医療に関する優れた取り組み・製品・プロジェクトに与えられる。2010年には、506のアイデアの中からシスメックスのOSNA法が「研究・薬理学」領域における「Best Ideas in healthcare 2010」に選ばれた

10月 ・知財功労賞経済産業大臣表彰を受賞

・神戸市環境功労賞を受賞

8月 ・シスメックスアニュアルレポート2009が「2009ビジョン・アワード」ヘルスケア部門ゴールド賞を受賞

7月 ・全国発明表彰において発明賞を受賞

4月 ・兵庫県発明賞を受賞

3月 ・「Companies That Care Honor Roll 2010」に選出（シスメックス・アメリカ）

2月 ・「食品廃棄物によるたい肥製造」の取り組みが、「ひょうごバイオマスecoモデル※」として認定(兵庫県主催)

※ 兵庫県下でバイオマスを先導的に利用している取り組みが認定される

2009年

10月 ・研究開発拠点テクノパークが「緑の都市賞※」において奨励賞を受賞（財団法人都市緑化基金主催）

※ 緑豊かな都市づくり・街づくりを目指し、樹木や花などの「みどり」を用いた環境の改善などに成果を上げている企業などが表彰される

9月 ・研究開発拠点テクノパークが「日経ニューオフィス賞※」において推進賞を受賞

※ 創意と工夫にあふれ、快適かつ機能的、また感性を刺激し創造性を高めるオフィスが表彰される

9月 ・外部精度管理調査サポート活動などが評価され、モンゴル国厚生省から名誉表彰を受章

4月 ・IRサイトが大和インベスターリレーションズ「インターネットIRサイトの優秀企業580社」に選定

3月 ・IRサイトがゴメス「IRサイト総合ランキング」で優良企業賞を受賞

3月 ・「Companies That Care Honor Roll 2009」に選出（シスメックス・アメリカ）

2008年

12月 ・研究開発拠点テクノパークが神戸市CASBEE※で初めての最高Sクラスの評価

※ CASBEE：地球環境をはじめ、耐震性、バリアフリー、景観などに配慮した建物に対して評価する制度（建築物総合環境性能評価制度）

11月 ・平成20年度近畿地方発明表彰にて「特許庁長官奨励賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞（財団法人発明協会主催）

10月 ・「平成20年度こうべ男女いきいき事業所表彰」を受賞（神戸市主催）

3月 ・あんしんレポート2007が「環境コミュニケーション大賞」にて奨励賞を受賞（環境省主催）

2007年

12月 ・アニュアルレポートが「日経アニュアルリポートアウォード2007」にて特別賞を受賞

11月 ・平成19年度近畿地方発明表彰にて「支部長賞」1件と「発明奨励賞」2件を受賞（財団法人発明協会主催）

4月 ・「血液中の幼若細胞測定用試薬に関する技術」が、平成19年度文部科学大臣表彰を受賞（文部科学省主催）

ガイドライン等対照表

ISO26000対照表

下表では、「ISO26000※」の7つの中核主題と、「あんしんレポート」において関連する情報を掲載している場所を対照させています。

※ ISO26000：2010年11月に組織の社会的責任のガイダンスとして発行された規格

ISO26000中核主題	掲載箇所
組織統治	▶P25 マネジメント　▶P3 トップメッセージ
人権	▶P40 従業員との関わり
労働慣行	▶P40 従業員との関わり
環境	▶P56 環境保全活動　▶P11 特集2　▶P13 特集3
公正な事業慣行	▶P25 マネジメント　▶P48 取引先との関わり
消費者課題	▶P34 お客様との関わり　▶P9 特集1
コミュニティへの参画 およびコミュニティの開発	▶P51 社会貢献活動　▶P13 特集3

GRIガイドライン対照表

下表では、GRI※の「サステイナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」の開示要請項目と、「あんしんレポート」において関連する情報を掲載している場所を対照させています。

※ GRI：Global Reporting Initiativeの略。1997年に、企業のサステイナビリティ（持続可能性）報告に関する国際的なガイドラインの作成とその普及を目的に設立された国際機関

GRIガイドライン第3.1版 開示要請項目			掲載箇所
戦略および分析			
1.1		組織と持続可能性の適合性（関連性）と、組織の戦略に関する組織の最高意思決定者（CEO、会長またはそれに相当する上級幹部）の声明	▶P3 トップメッセージ
1.2		組織の活動が持続可能性、ステークホルダーに及ぼす主要な影響、リスクおよび機会の説明	▶P3 トップメッセージ ▶Webサイト：株主・投資家の皆様へ
組織のプロフィール			
2.1		組織の名称	▶P5 シスメックスについて
2.2		主要なブランド・製品および／またはサービス	▶P5 シスメックスについて
2.3		主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	▶P5 シスメックスについて

2.4		組織の本社の所在地	▶裏表紙
2.5		組織が事業展開している国の数および大規模に事業を展開している、あるいは報告書中に記載されている持続可能性の課題に特に関連のある国名	▶P5 シスメックスについて ▶P3 トップメッセージ
2.6		組織の所有形態の性質および法的形式	▶Webサイト：株主・投資家の皆様へ
2.7		参入市場（地理的内訳、参入セクター、顧客／受益者の種類を含む）	▶P5 シスメックスについて
2.8		報告組織の規模	▶P5 シスメックスについて
2.9		規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	▶Webサイト：株主・投資家の皆様へ
2.10		報告期間中の受賞歴	▶P66 社外からのCSR評価
報告書のプロフィール			
3.1		提供する情報の報告期間（会計年度／暦年など）	▶P2 編集方針〈対象期間〉
3.2		前回の報告書発行日（該当する場合）	▶P2 編集方針〈発行時期〉
3.3		報告サイクル（年次、半年ごとなど）	▶P2 編集方針〈編集方針〉
3.4		報告書またはその内容に関する質問の窓口	▶P2 編集方針〈本報告書に関するお問い合わせ先〉
報告書のスコープおよびバウンダリー			
3.5		報告書の内容を確定するためのプロセス	
3.6		報告書のバウンダリー（国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー（供給者）など）	▶P2 編集方針〈対象組織〉
3.7		報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項の明記	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
3.8		共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび／または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	▶Webサイト：株主・投資家の皆様へ
3.9		報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	▶P2 編集方針〈参考にしたガイドライン〉
3.10		以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由（合併／買収、基本となる年／期間、事業の性質、測定方法の変更など）	
3.11		報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	
GRI内容索引			
3.12		報告書内の標準開示の所在場所を示す目次	▶P69 ガイドライン等対照表
保証			
3.13		報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する。	

ガバナンス			
4.1		戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造（ガバナンスの構造）	▶P25 マネジメント〈コーポレート・ガバナンス〉
4.2		最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す	▶Webサイト：コーポレート・ガバナンス
4.3		単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび／または非執行メンバーの人数および性別の明記	▶Webサイト：コーポレート・ガバナンス
4.4		株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉
4.5		最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬（退任の取り決めを含む）と組織のパフォーマンス（社会的および環境的パフォーマンスを含む）との関係	▶Webサイト：コーポレート・ガバナンスに関する報告書
4.6		最高統治機関が利害相反（利益相反）問題の回避を確保するために実施されているプロセス	▶P25 マネジメント〈コーポレート・ガバナンス〉
4.7		性別およびその他のダイバーシティ指標へのあらゆる考慮を含む、最高統治機関およびその委員会メンバーの構成、適性および専門性を決定するためのプロセス	▶P25 マネジメント〈コーポレート・ガバナンス〉
4.8		経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション（使命）およびバリュー（価値）についての声明、行動規範および原則	▶P7 企業理念 ▶P26 マネジメント〈コンプライアンス〉 ▶P34 お客様との関わり〈品質の確保〉 ▶P48 取引先との関わり〈バリューチェーンにおけるCSRの推進〉 ▶P41 従業員との関わり〈評価・処遇〉 ▶P51 社会貢献活動〈基本的な考え方〉 ▶P57 環境保全活動〈環境マネジメント体制〉 ▶P64 環境保全活動〈グリーン調達〉
4.9		組織が自らに固有の経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス（関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む）	▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉 ▶P25 マネジメント〈コーポレート・ガバナンス〉 ▶P30 マネジメント〈リスクマネジメント〉
4.10		最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	▶P25 マネジメント〈コーポレート・ガバナンス〉 ▶P57 環境保全活動〈環境マネジメント体制〉
外部のイニシアティブへのコミットメント			
4.11		組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	▶P15 CSRの取り組みの概要 ▶P57 環境保全活動〈環境マネジメント体制〉 ▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉
4.12		外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉

4.13		団体および／または国内外の提言機関における会員資格	
ステークホルダー参画			
4.14		組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉
4.15		参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉
4.16		種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	▶P32 マネジメント〈CSRマネジメント〉
4.17		ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要な話題および懸案事項と、それらに対する組織の対応方法（報告を通じた浮かび上がらせを含む）	
経済			
マネジメント・アプローチ			▶P3 トップメッセージ
経済的パフォーマンス			
EC1	中核	収入、事業コスト、従業員の給与、寄付やその他のコミュニティへの投資、内部留保、資本提供者や政府に対する支払いなど、発生し、分配された直接的な経済的価値	▶Webサイト：株主・投資家の皆様へ
EC2	中核	気候変動による、組織の活動に対する財務上の影響とその他のリスク・好機	
EC3	中核	確定給付制度の組織負担の範囲	
EC4	中核	政府から受けた高額の財務的支援	
市場での存在感			
EC5	追加	主要な事業地域での、現地の最低賃金と比較した標準的な男女の新入社員賃金の比率の幅	
EC6	中核	主要な事業地域の地元サプライヤーに対する方針と業務慣行、支出の割合	▶P48 取引先との関わり〈バリューチェーンにおけるCSRの推進〉
EC7	中核	主要な事業地域での、現地採用の手順と、現地のコミュニティから上級管理職に採用された従業員の割合	
間接的な経済影響			
EC8	中核	商業活動、現物支給、または無料奉仕を通じて、第一に公共の利益のために提供されるインフラ投資とサービスの展開と影響	▶P51 社会貢献活動
EC9	追加	重要な間接的経済効果についての見解と記述。影響の範囲も含めて。	
環境			
マネジメント・アプローチ			▶P3 トップメッセージ
原材料			
EN1	中核	使用した原材料の重量あるいは容量	
EN2	中核	原材料のうち、リサイクル由来の原材料を使用した割合	
エネルギー			

EN3	中核	一次エネルギー源（化石燃料、ウラン、自然エネルギーなど自然界に存在するかたち）ごとの直接エネルギー消費量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN4	中核	一次エネルギー源ごとの間接エネルギー（生産や輸送などに使用するエネルギー）消費量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN5	追加	省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN6	追加	エネルギー効率の高い、あるいは再生可能エネルギーを基礎とした製品およびサービスを提供する率先的取り組み、およびこの取り組みの結果として得られた、必要エネルギー量の減少	▶P60 環境保全活動〈製品の環境配慮〉
EN7	追加	間接エネルギー消費量削減のための率先的取り組み、および達成された減少量	▶P60 環境保全活動〈サービスなどの環境配慮〉
水			
EN8	中核	水源からの総取水量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN9	追加	取水により著しい影響を受ける水源	なし
EN10	追加	水のリサイクルおよび再使用が総使用水量に占める割合およびその総量	
生物多様性			
EN11	中核	保護地域内および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域であって、所有、賃借、管理している土地、あるいはそれらの土地に隣接している土地の所在地および面積	▶P13 特集3
EN12	中核	保護地域および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域での活動、製品、およびサービスが及ぼす影響についての記述	▶P13 特集3
EN13	追加	保護または回復されている生息区域	▶P13 特集3
EN14	追加	生物多様性への影響を管理するための戦略、現在の活動、および将来の計画	
EN15	追加	事業によって影響を受ける地区に生息するIUCNのレッドリスト種（絶滅危惧種）および国内の保護対象種の数。絶滅危険性のレベルごとに分類する。	なし
排出物、排水および廃棄物			
EN16	中核	直接及び間接的な温室効果ガス排出の、重量ベースでの総量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN17	中核	その他の関連する温室効果ガスの重量ベースでの排出量	▶P62 環境保全活動〈事業所の環境配慮〉
EN18	追加	温室効果ガスを削減するための率先的取り組み、および達成された削減量	▶P62 環境保全活動〈事業所の環境配慮〉
EN19	中核	オゾン層破壊物質の重量での排出量	▶P62 環境保全活動〈事業所の環境配慮〉
EN20	中核	NOx、SOxおよびその他の重大な排気物質についての種類別および重量ごとの排出量	ごく少量のため非開示

EN21	中核	排水の水質および流出先ごとの総量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN22	中核	廃棄物の種類別および廃棄方法ごとの総量	▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉
EN23	中核	重大な漏出の総件数および流出量	▶P57 環境保全活動〈環境マネジメント〉
EN24	追加	バーゼル条約付属文書Ⅰ、Ⅱ、ⅢおよびⅧの下で有害とされる廃棄物の輸送、輸入あるいは輸出、または取り扱いの重量、および国家間を移動した廃棄物の割合	なし
EN25	追加	報告を行う組織による排水および漏出により著しい影響を受ける水域および関連する生息環境の特定、およびその容量、保護状況、および生物多様性の価値	なし
製品およびサービス			
EN26	中核	製品およびサービスの環境影響削減を緩和する率先的取組みとその削減の程度	▶P60 環境保全活動〈製品の環境配慮〉 ▶P60 環境保全活動〈サービスなどの環境配慮〉 ▶P63 環境保全活動〈その他〉 ▶P65 環境保全活動〈事業活動にともなう環境負荷〉 ▶P11 特集2
EN27	中核	使用済みとなった時点で再生利用される販売製品および包装資材の、種類別の割合	
コンプライアンス			
EN28	中核	適用される環境法および規制への不遵守に対する罰金の金額または罰金以外の制裁措置の総数	なし
輸送			
EN29	追加	組織運営のために利用される製品とその他の物品や材料の輸送と、労働力の移動が、環境に与える重大な影響	▶P60 環境保全活動〈製品の環境配慮〉 ▶P60 環境保全活動〈サービスなどの環境配慮〉 ▶P63 環境保全活動〈その他〉
全般			
EN30	追加	種類ごとの、環境保護目的の総支出および投資額	
社会			
労働慣行とディーセント・ワーク（適正労働）			
マネジメント・アプローチ			▶P3 トップメッセージ
雇用			
LA1	中核	雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力の男女別内訳	
LA2	中核	従業員の新規採用数および雇用率（全従業員に占める割合）、総離職数および離職率の年齢、性別および地域ごとの内訳	▶P41 従業員との関わり〈評価・処遇〉

LA3	中核	主要な事業地域ごとの、臨時社員またはパートタイム従業員には支給されず、正社員には支給される福利のための手当	
LA15	中核	男女別の出産・育児休暇後における、復職率と定着率	
労働/労使関係			
LA4	中核	団体交渉の対象となっている従業員の割合	▶P45 従業員との関わり〈労使協調〉
LA5	中核	労働協約として特定されているか否かを含め、業務上の重要な変更に関する、最短通知期間	
労働安全衛生			
LA6	追加	労働安全衛生プログラムについての監視および助言を行う公式の労使合同安全衛生委員会の対象となる従業員総数の割合	▶P45 従業員との関わり〈労使協調〉
LA7	中核	地域別および性別の、傷害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合、および業務上の死亡者数	▶P45 従業員との関わり〈健康と安全への配慮〉
LA8	中核	深刻な病気に関する、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている、教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	▶P45 従業員との関わり〈健康と安全への配慮〉
LA9	追加	労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	▶P45 従業員との関わり〈労使協調〉
教育研修			
LA10	中核	雇用分野別、男女別の、従業員一人あたりの年間平均研修時間	▶P46 従業員との関わり〈人材育成〉
LA11	追加	従業員の継続的な雇用適性を支援し、キャリア終了管理を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム	▶P46 従業員との関わり〈人材育成〉
LA12	追加	男女別の、能力・業績およびキャリア開発に関する定期的審査を受けている従業員の割合	▶P41 従業員との関わり〈評価・処遇〉
多様性と機会均等			
LA13	中核	性別、年齢、マイノリティーグループおよびその他の多様性の指標ごとの、統治体（経営管理職）の構成および従業員カテゴリーごとの従業員の内訳	▶P40 従業員との関わり〈人権・多様性の尊重〉
男女同一報酬			
LA14	中核	従業員カテゴリー別の男性および女性の基本給および給与の比率	
人権			
マネジメント・アプローチ			▶P3 トップメッセージ
投資および調達の慣行			
HR1	中核	人権に関する懸念についての条項を含む、あるいは人権についての適正審査を受けた主要な投資協定や契約の割合および総数	
HR2	中核	人権に関する適正審査を受けた主要なサプライヤー、請負業者およびその他の事業パートナーの割合、および実施された活動内容	▶P48 取引先との関わり〈バリューチェーンにおけるCSRの推進〉

HR3	中核	業務に関連する人権的側面に関わる方針および手順に関する従業員研修の総時間数、および研修を受けた従業員の割合	▶P26 マネジメント〈コンプライアンス〉 ▶P40 従業員との関わり〈人権・多様性の尊重〉
無差別			
HR4	中核	差別事例の総数と実行された是正措置	
組合結成と団体交渉の自由			
HR5	中核	結社および団体交渉の自由を侵害する、または重大な侵害の恐れのある業務と重要なサプライヤー、およびこれらの権利の支援のために実施された活動	
児童労働			
HR6	中核	児童労働の重大なリスクがある業務と重要なサプライヤー、および児童労働の根絶に寄与するために取られた措置	▶P40 従業員との関わり〈人権・多様性の尊重〉 ▶P48 取引先との関わり〈バリューチェーンにおけるCSRの推進〉
強制労働			
HR7	中核	強制(・義務)労働の深刻な危険がある業務と重要なサプライヤー、および強制労働の根絶に寄与するために取られた措置	▶P40 従業員との関わり〈人権・多様性の尊重〉 ▶P48 取引先との関わり〈バリューチェーンにおけるCSRの推進〉
保安慣行			
HR8	追加	業務に関連し人権に関する組織の方針または手続きの研修を受けた保安要員の割合	
先住民の権利			
HR9	追加	先住民の人権侵害に関わる事例の総数、および対処措置	
評価(アセスメント)			
HR10	中核	人権審査・影響評価の対象となっている事業活動数と総事業活動数に対する割合	
改善			
HR11	中核	人権に関する苦情について、正式な仕組みを通じて解決された件数	
社会			
マネジメント・アプローチ			▶P3 トップメッセージ
地域社会(コミュニティ)			
SO1	中核	事業活動の中で、現地コミュニティ参画、コミュニティへの影響評価、コミュニティの開発プログラムが施行された事業活動の割合	
SO9	中核	事業活動によってもたらされる、現地コミュニティへの潜在的ではあるが大きな悪影響、あるいは実際の悪影響	
SO10	中核	事業活動によってもたらされる、現地コミュニティへの潜在的ではあるが大きな悪影響、あるいは実際の悪影響への予防策および緩和策	
不正行為			

SO2	中核	不正行為に関連するリスク分析を受けた業務単位の割合と総数	
SO3	中核	組織の反不正行為に関する方針と手続きに関して訓練を受けた従業員の割合	▶P40 従業員との関わり〈人権・多様性の尊重〉 ▶P49 取引先との関わり〈取引におけるコンプライアンスの徹底〉
SO4	中核	不正行為事例に対して取られた措置	
公共政策			
SO5	中核	公共政策に関してとっている立場と、公共政策形成への参加およびロビー活動	
SO6	追加	政党、政治家または関連機関への献金および類似の寄付の総額	
反競争的な行動			
SO7	中核	自由競争の原則に反する行動、反トラスト、独占的慣行に関してとられた法的措置の事例の総数と、法的措置がとられたことによって生じた結果	
コンプライアンス			
SO8	中核	法律と規制への違反に対する重大な罰金の金額と、罰金以外の制裁の総数	該当する事象は発生していません
製品責任			
マネジメント・アプローチ			▶P3 トップメッセージ
顧客の安全衛生			
PR1	中核	製品とサービスが安全衛生に及ぼす影響について、改善のための評価が実施されているライフサイクルの諸ステージと、それらの手続きの対象となる主要な製品とサービスのカテゴリーの割合	▶P34 お客様との関わり〈品質の確保〉
PR2	追加	製品とサービスの安全衛生上の影響に関する規制と自主規定が遵守されなかった事例の件数（これらの不遵守が招いた帰結の種類ごとに）	▶P35 お客様との関わり〈安全性・品質に関する情報〉
製品とサービスのラベリング			
PR3	中核	各種手続きによって要請される製品とサービスについての情報の種類と、情報要請の対象となる主要製品とサービスの割合	
PR4	追加	製品とサービスの情報とラベリングに関する規制と自主規定に違反した事例の件数（これらの違反が招いた帰結の種類ごとに）	▶Webサイト：製品に関する重要なお知らせ
PR5	追加	顧客満足に関する実践----顧客満足を測定するための調査の結果など	▶P36 お客様との関わり〈サービス＆サポート〉 ▶P37 お客様との関わり〈顧客満足度の向上〉
マーケティング・コミュニケーション			
PR6	中核	広告、宣伝、後援などのマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準、自主規定の厳守のためのプログラム	▶P26 マネジメント〈コンプライアンス〉

PR7	追加	広告、宣伝、後援などのマーケティング・コミュニケーションに関する規制と自主規定に違反した事例の件数（これらの違反が招いた帰結の種類ごとに）	
プライバシーの尊重			
PR8	追加	顧客のプライバシー侵害に関する正当な根拠のあるクレームの件数と顧客情報紛失の件数	
コンプライアンス			
PR9	中核	製品・サービスの供給と使用に関する法律と規則に違反したことに対して課された罰金の総額	なし

第三者意見

「シスメックス あんしんレポート2014」を読んで

神戸大学大学院 経営学研究科教授
國部 克彦 様

社会課題の解決と社会貢献

特集1において、2013年度にドイツ企業2社をグループに加えたこと、その目的と課題について詳しく書かれています。この事業戦略の目的について、「個別化医療」など医療分野での社会課題の解決に貢献すること、新興国・途上国での感染症医療の普及に貢献することであると明記されています。本業での社会課題の解決を目指して事業戦略を展開し、それがシスメックスが社会に貢献する方法であるという姿勢を示したものです。グループ企業の拡大などは、IRの資料に掲載されることですが、それをCSRの側面から位置づけておられることは、事業を通じたCSR戦略を体現するものとして評価できると思います。

着実に進む環境保全活動

2013年度は物流プロセスの改善について、大きく力を入れられています(特集2)。輸送や梱包など、大きな変革から小さなことの積み重ねまで、着実に環境保全活動を推進されている様子がわかり、高く評価されます。また生物多様性についても対応されており、2013年度は「シスメックスの森」という森林整備活動を開始されました(特集3)。自社工場の上流にある森林を保護することで、工場の水を守りながらさらに下流への責任を意識して生態系の保全に取り組まれるプロジェクトであり、有意義なものと思います。今後はこれらの活動をCSR目標の中にも落とし込んで、継続的に進められることを期待しています。

CSR活動の中長期目標と指標化

シスメックスにおけるCSR活動について、ISO26000の7つの中核主題に沿った目標を設定され2013年度の活動状況と2014年度への課題を一覧にされています。自己評価もあり、大変わかりやすいと思います。今後は可能な範囲で数値目標を立てられれば内容がより具体的に伝わると思いますし、海外事業所も含めた活動としてさらに展開されることを期待します。「Sysmex Way」を推進するために、国内でも海外でも活用できる指標(KPI;主要な活動指標)を設定し、その数値情報の動きをみることで、シスメックスのグローバルでのCSR活動がわかるようなものがあれば、世界的に評価されるレベルの活動となるでしょう。シスメックスが活動する業界はCSR活動のレベルも高いので、今後の発展を期待しています。

We Believe the Possibilities.

シスメックス株式会社
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1　〒651-0073
Tel 078-265-0500　Fax 078-265-0524
www.sysmex.co.jp